

アプリケーション操作ガイド

(Windows 95インストール)

- マルチメディア機能を利用する
- こんな機能もあります
- その他の機能を使う
- アプリケーションの削除と追加



98 MATE

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響については、(3) 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
 - ・ 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 95および本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windowsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

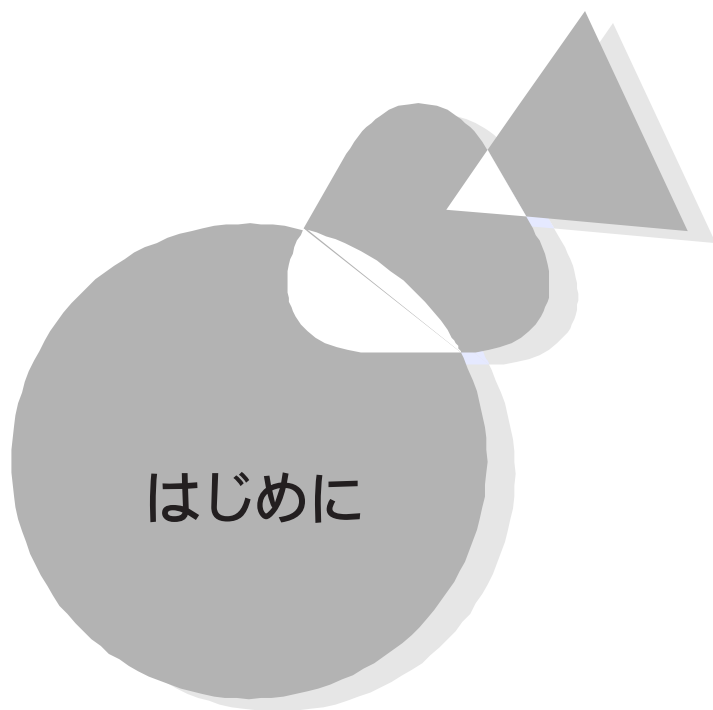
Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995

© NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

AN061A

808-884762-002-A



本機には、さまざまなアプリケーションが添付されており、購入したその日から使いはじめることができるようになっています。

本書はそれらのアプリケーションの紹介と基本的な使い方について説明しています。

このマニュアルの構成

このマニュアルは次の内容で構成されています。

なお、このマニュアルはPC-9821 Ra43を対象にしています。



Part 1 マルチメディア機能を利用する

.....

CDを再生するのに便利なソフトについて説明しています。



Part 2 こんな機能もあります

.....

本機を使いこなすのに便利なツールについて説明しています。



Part 3 その他の機能を使う

.....

購入時にはセットアップされていない機能のセットアップ方法と使い方について説明しています。



Part 4 アプリケーションの削除と追加

.....

本機に標準でインストールされているアプリケーションの削除方法と削除したアプリケーションの再追加方法について説明しています。

■ ソフトウェアの最新情報のお知らせ

1. 西暦2000年問題について

NECでは、インターネットのホームページ「98Information」の「西暦2000年対応状況」や「98AP情報」で、西暦2000年問題についての情報を提供しています。次のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.nec.co.jp/98/>

なお、本機ではWindows 95の西暦2000年問題を修正した「Windows 95 Year 2000 Update」CD-ROM(1999年6月現在のもの)を添付しています。

このWindows 95の西暦2000年問題修正プログラムはインストールされていませんので、必要に応じてセットアップを行ってください。

セットアップ方法は、「Windows 95 Year 2000 Update」CD-ROMのレーベルに記載しています。

また、次のアプリケーションに関してはご利用になる前に2000年問題に対応している最新版を入手してください。

入手方法についての詳細は次のURLを参照してください。

Internet Explorer 3.02

<http://www.microsoft.com/japan/year2k/product/product.htm>

2. アップデートサービスについて

製品の最新情報、ソフトウェアのアップデートサービスの情報(ソフトウェアの強化・修正情報、モジュールの入手情報)を、FAXサービス、パソコン通信、インターネットでご案内しております。

・ NEC パソコン情報FAX サービス

FAX 東京 : (03) 8769-9821

大阪 : (06) 6644-9821

(2000年5月現在)

・ インターネット

98 Information URL <http://www.nec.co.jp/98/>

また、最新のウイルスに対応するために、次のURLより最新のウイルスデータを手に入れてください。なお記載されている情報は更新されますので、定期的にアクセスして確認してください。

VirusScan(エンジン・バージョン4.X用DATファイル)

<http://www.nai.com/japan/>

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号には、次のような意味があります。



行ってはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。場合によっては、本機が故障したり、本機で使用しているソフトウェアや、お客様が作成されたデータが壊れたりする可能性もあります。



参考にしていただきたいことを説明しています。

このマニュアルで使用している表記には、次のような意味があります。

[XXX]	[]で囲んである文字は、画面に表示されるダイアログボックス、ボタンなどの名前を表しています。 例：[OK]ボタン
ESC	キーボードのキーは、枠で囲んで表記しています。
バックアップ CD-ROM	本機に添付している「アプリケーションCD-ROM/バックアップCD-ROM(OSを除く)」を指しています。

記載されているアプリケーションなどの製品正式名称は、以下のとおりです。

本文中の表記	正式名称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

- 本機に添付のCD-ROMは、CD-ROM対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。
大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカを破損する恐れがあります。

目次

はじめに

このマニュアルの構成 iv

このマニュアルの表記について vi



Part 1 マルチメディア機能を利用する

.....

オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する～98プレーヤー 2

CDを再生する 3

オーディオCDを聴く 4

ビデオCD(カラオケCD)を見る 6

オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する 9

フォトCDを見る 10

MPEG動画を再生する 12

NEC Soft MPEG 1.0に関する注意事項 13

マルチメディア機能を使う場合の注意 14

メディアプレーヤーを利用する場合のご注意 14

ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご注意 14



Part 2 こんな機能もあります

.....

DMIT00Lを利用する 16

98Timerを使う 26

他のパソコンからのリモートコントロールを受ける

～pcANYWHERE プラス(ホスト専用版) 32

コンピュータウイルスに備える～ウイルススキャン 38

スキャンワクチンを使ってウイルスを検査する 38

ウイルスを駆除する 40

かな漢字変換(NECA IIME95)を利用する 42



Part 3 その他の機能を使う

.....

インストールされていない機能を追加する	46
LANシリーズのデータを見る～LANWORD、LANPLAN/G、LANFILE ファイルのクイック表示	51
英語モードフォントを使用する	53
DOS APインストーラ	55
MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを 作成する	56
MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する	61
DOS APインストーラの注意事項	62
手作業によるアプリケーションの登録	63
アプリケーションを利用する際の注意	65



Part 4 アプリケーションの削除と追加

.....

アプリケーションを削除する	68
コントロールパネルを使って削除する	70
アンインストール機能を使って削除する	76
削除したアプリケーションを再追加する	78

索引	85
----------	----

マルチメディア機能を利用する

本機でマルチメディア機能を利用する手順や注意事項について説明します。

- オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する
- MPEG動画を再生する
- マルチメディア機能を使う場合の注意

オーディオCD/ビデオCD/フォトCDを再生する～98プレーヤー

オーディオCD、ビデオCD(カラオケCD)やフォトCDに対応した再生用のアプリケーションが起動します。



98プレーヤー終了後、再度起動させるときは、[スタート]メニューの[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]から[98プレーヤー]をクリックします。

●CDの規格

98プレーヤーが対応しているCDの規格は次のとおりです。規格外のCDは再生できない場合があります。

- ・オーディオCD
- ・ビデオCD(Ver1.1)/カラオケCD(Ver1.1)
- ・ビデオCD(Ver2.0)
- ・フォトCD
- ・フォトCDポートフォリオ



CDを再生する.....

オーディオCDの場合、CDをCD-ROMドライブにセットすると、自動的に98プレーヤーが起動し、次のような画面が表示されます。自動的に起動しない場合およびビデオCD（カラオケCD）フォトCDの場合は、CDをCD-ROMドライブにセットして、[スタート]メニューの[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]をポイントして[98プレーヤー]をクリックすると98プレーヤーが起動します。

■ オーディオCDの場合

総トラック数と総演奏時間が表示されています。
ボタンの操作方法については、後述する「オーディオCDを聴く」をご覧ください。



■ ビデオCD(カラオケCD)の場合

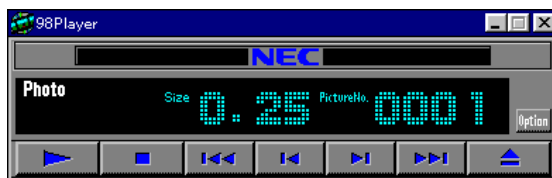
総トラック数が表示されます。
ボタンの操作方法については、後述の「ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。



プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの場合は、プレイバックコントロールウィンドウも表示されます。詳しくは、「ビデオCD(カラオケCD)を見る」をご覧ください。

■ フォトCDの場合

1枚目の写真が表示されます。
ボタンの操作方法については、「フォトCDを見る」をご覧ください。



オーディオCDを聴く.....

オーディオCD再生時のボタン操作について説明します。

[Option] をクリックすると、98プレーヤーの下に、拡張ボタンが表示されます。



■ 基本的な使い方

・ 再生 / 一時停止

- [▶] ボタン ・ クリックすると、再生が始まります([||] に変わる)
- [||] ボタン ・ クリックすると、一時停止します([▶] に変わる)
再度 [▶] をクリックすると、一時停止した場所から再生します。
- ・ 停止
- [■] ボタン ・ クリックすると再生を停止、または一時停止状態を解除します。



[■] ボタンで停止させた後 [▶] をクリックすると先頭の曲に戻って再生を始めます。

・ 巻き戻し / 早送り

- [◀◀] ボタン ・ 再生中、または一時停止中にクリックし続けると巻き戻し、ボタンを離すと再生します。
- [▶▶] ボタン ・ 再生中、または一時停止中にクリックし続けると早送り、ボタンを離すと再生します。



画面の時間表示が変化します。ボタンを離すとそのとき表示されている時間から再生を開始します。



- ・ 曲の頭出し
[◀] ボタン
 - ・ 再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の曲の先頭に戻って再生します。
 - ・ 再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ再生する曲番号が戻ります。
 - ・ 停止中に連続してクリックすると、クリックした数だけ戻って再生します。
- ・ 再生中、または一時停止中にクリックすると、再生中の次の曲から再生します。
- ・ 再生中、または一時停止中に連続してクリックすると、一曲ずつ曲番号が先に進んで再生します。
- ・ CD-ROMトレイのイジェクト
[▲] ボタン
 - ・ 停止中にクリックするとトレイがイジェクトされます。



別売のCD-ROMドライブを使用する場合、イジェクト機能はご利用できない場合があります。

- ・ 98プレーヤーの終了
 をクリックすると、98プレーヤーを終了します。

■[Option] ボタンの使い方

- ・ リpeat [⏮] ボタン
 クリックするたびに、リpeat再生モードが1曲のみ、全曲へと切り替わり、インジケータが表示されます。
- ・ 演奏時間表示切り替え [⏭] ボタン
 クリックするたびに、表示ディスプレイ部分の時間表示が、現在のトラック内の演奏経過時間が残り演奏時間に切り替わります。
- ・ [Program] ボタン
 再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD / ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。
- ・ ミューt [⏮] ボタン
 左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。
 ただし、CDの再生中は使用できません。
- ・ 音声チャンネル [⏮] [⏭] ボタン
 [⏮] ボタンは、左チャンネル、[⏭] ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。
 ただし、CD再生中は使用できません。

- ・ [状態設定] ボタン
[自動再生] チェックボックスを選択すると、98プレーヤーの起動時に自動的に再生が始まります。



[元の画像サイズで表示] ボタンと [カラオケ一覧表示] ボタンは利用できません。

ビデオCD(カラオケCD)を見る.....

ビデオCD再生時のボタン操作について説明します。

[Option] をクリックすると、98プレーヤーの下に、拡張ボタンが表示されます。



■ 基本的な使い方

基本的な操作は、オーディオCDとほとんど同じです。

前述の「オーディオCDを聴く」の「■ 基本的な使い方」をご覧ください。



- ・ ビデオCDの再生中にウィンドウサイズをひんばんに変更すると、ビデオの表示が乱れることがあります。このようなときは、98プレーヤーをいったん終了させて再起動すると、表示が正常に戻ります。
- ・ プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDの再生時には、頭出し機能は利用できません。

■ [Option] ボタンの使い方

- ・ リpeat [〇] ボタン
クリックするたびに、リピート再生モードが1プログラムのみ、全プログラムへと切り替わり、インジケータが表示されます。



- ・ [Program] ボタン
再生順序を指定できます。詳しくは、「オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する」をご覧ください。
- ・ ミューT [⏮] ボタン
左右の音声出力を同時にOFFします。音声出力が左右ともOFFの場合に、このボタンをクリックすると、左右同時にONになります。
- ・ 音声チャンネル [⏮] [⏭] ボタン
[⏮] ボタンは、左チャンネル、[⏭] ボタンは右チャンネルの音声出力のON/OFFを切り替えます。



カラオケCDでは、カラオケ演奏とボーカル音声は、左右どちらかのチャンネルに分かれて録音されています。ボーカル音声を消すときは、左右どちらか、ボーカル音声の録音されているチャンネルの音声を消す必要があります。左右どちらかの音声を消すときは、[⏮] または [⏭] をクリックします。また、[⏮] をクリックすると、両方の音声を消すことができます。

- ・ [元の画像サイズで表示] ボタン
ビデオCDの再生時に、ウィンドウのサイズを起動時のサイズに戻します。
- ・ [カラオケ一覧表示] ボタン
カラオケCDの曲目が一覧表示されます。再生した曲目をクリックし、さらに [演奏] ボタンをクリックすると、すぐに再生が始まります。
- ・ [状態設定] ボタン
[自動再生] チェックボックスを選択すると、98プレーヤーの起動時に自動的に再生が始まります。
[画像再生時にスクリーンセーバを起動しない] チェックボックスを選択すると、ビデオCDの再生時にスクリーンセーバを起動させないようにします。



- ・ [演奏時間表示切り替え] ボタンは、利用できません。
- ・ プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケCDでは、[カラオケ一覧表示] ボタン、[リピート] ボタン、および [Program] ボタンは利用できません。

■ プレイバックコントロールの使い方

プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの再生時には、98プレーヤーとともにプレイバックコントロールウィンドウが表示されます。



- ・  ボタン
画面を表示します。
- ・  ボタン
前画面に戻ります。
- ・  ボタン
次画面に進みます。
- ・  ボタン
メニュー画面に戻ります。
- ・  ボタン
数値を選択するときに使います。
 の数字ボタンで番号を決定して  ボタンをクリックすると、画面を表示します。
- ・  ボタン
プレイバックコントロールウィンドウをアイコン化します。
- ・ 
番号表示部分をクリックすると、数字ボタンで選択された番号をキャンセルします。



各ボタンの機能は、CD-ROMにより多少異なっていますので、CD-ROM添付の説明書を参照してください。

オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定する.....

- 1 98プレーヤーの[Option]ボタンをクリックします。
98プレーヤーの下に拡張ボタンが表示されます。
- 2 [Program]ボタンをクリックします。
[プログラム予約]ダイアログボックスが表示されます。



- ・ プログラムの再生中と一時停止中は、[Program]ボタンは使用できません。
- ・ プレイバックコントロール機能に対応したビデオCDでは利用できません。

- 3 [トラック]の一覧に表示されているプログラムのどれかをクリックし、[追加]ボタンをクリックします。
[予約された曲]へ、選択したプログラムが登録されます。



予約済みのプログラムを解除するときは、[予約された曲]の一覧から解除したい曲を選択し、[削除]ボタンをクリックします。また、すべての予約を解除するときは、[全削除]ボタンをクリックします。

- 4 [OK]ボタンをクリックします。
予約内容を設定しない場合は[Cancel]ボタンをクリックします。
- 5 98プレーヤーの[▶]ボタンをクリックします。
登録した順序で再生を始めます。

フォトCDを見る.....

フォトCD再生時のボタン操作について説明します。

[Option] をクリックすると、98プレーヤーの下に拡張ボタンが表示されます。



■ 基本的な使い方

- ・ 自動表示 / 停止
[▶] ボタン クリックすると、自動表示を行います。
[■] ボタン クリックすると、自動表示を停止します。
- ・ 表示
[◀◀] ボタン クリックすると、巻き戻します(ポートフォリオの再生時のみ)
[▶▶] ボタン クリックすると、早送りします(ポートフォリオの再生時のみ)
[◀] ボタン クリックすると、1つ前の写真に戻ります。
[▶] ボタン クリックすると、次の写真を表示します。
- ・ CD-ROMトレイのイジェクト
[▲] ボタン 停止中にクリックすると、トレイがイジェクトされます。



別売のCD-ROMドライブを使用する場合、イジェクト機能はご利用できない場合があります。

- ・ 98プレーヤーの終了
[X] をクリックすると、98プレーヤーを終了します。

■ [Option] ボタンの使い方

- ・ [Open] ボタン
フォトCDに記録されている写真のファイル名一覧を表示します。表示したいフォトCDのファイル名を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- ・ [List] ボタン
フォトCDに記録されている写真を縮小一覧表示します。写真をクリックすると、拡大表示します。



- ・ [Size] ボタン
クリックすると [PhotoCD画面サイズの設定] ダイアログボックスが表示されます。画面サイズを指定できます。
- ・ [Color] ボタン
クリックすると [表示色数の設定] ダイアログボックスが表示されます。表示色数を指定できます。
- ・ [Copy] ボタン
クリックすると、表示されている写真をクリップボードビューアへコピーします。



[Copy] ボタンをクリックするたびに、新しい写真データがクリップボードに上書きされ、前にコピーしたデータは消えてしまいます。コピーしたデータは次のコピーを行う前に必ず保存してください。

- ・ [Save] ボタン
クリックすると [ファイル名を指定する] ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を指定して、写真をビットマップ形式のファイル (. BMP) として保存できます。
- ・ [Extension] ボタン
JPEGに関する各種設定を行います。詳しくは [Help] ボタンをクリックして、オンラインヘルプをご覧ください。



フォトCDポートフォリオを再生している場合、[Open] ボタン、[List] ボタンの機能は利用できません。

フォトCDポートフォリオのCDで、[Open] ボタン、[List] ボタンの機能を利用するときは [Extension] ボタンを選び、ダイアログボックス中の [PhotoCDポートフォリオのときはポートフォリオモードで再生] チェックボックスをOFFにして、通常の98プレーヤーとして利用してください。

MPEG動画を再生する

MPEG動画を再生するには、以下の方法があります。

- ・ エクスプローラを利用する
- ・ メディアプレーヤを利用する

それぞれの手順について説明します。



MPEGでも形式によっては再生できないものもあります。

■ エクスプローラを利用する

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]から[エクスプローラ]をクリックして、起動します。
- 2** 拡張子が ".mpg" のファイルをダブルクリックします。
NEC Soft MPEG 1.0の機能により、MPEG動画が再生されます。

■ メディアプレーヤーを利用する

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]-[アクセサリ]-[マルチメディア]から[メディアプレーヤー]をクリックして起動します。
- 2** [デバイス]メニューから「NEC Soft MPEG 1.0」を選択します。
- 3** [ファイルを開く]ダイアログボックスで、再生したいMPEGファイルを選択して[開く]ボタンをクリックします。
- 4** 再生ボタンをクリックすると再生が始まります。



MPEGファイルとしては拡張子が ".mpg" のもののほかにビデオCD内の拡張子が ".dat" のものを再生することができます。

NEC Soft MPEG 1.0に関する注意事項....

- ・ビデオのみのデータあるいはビデオCDの静止画を含むデータは、現在の再生位置を示すスクロールバーの位置と実際の再生位置は必ずしも一致しません。
- ・メディアプレーヤーのスクロールバーの右側にある小さなボタンは、インジケータがフレームのときのみ、こま送りとなります(順方向ボタン)。逆再生方向のボタンは戻る場合と戻らない場合があります。
- ・画質優先モードで再生時、画像サイズを変更すると再生が遅くなる場合があります。
- ・メディアプレーヤー、98プレーヤーでプルダウンメニューを表示すると再生が停止します。再生中にキーボードからGRPHキーを押したときも同様に停止します。

:

Part

1

マルチメディア機能を利用する

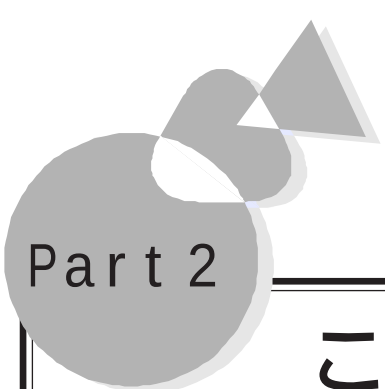
マルチメディア機能を使う場合の 注意

メディアプレーヤーを利用する場合のご注意.....

メディアプレーヤーを利用すると、音声データ、MIDIによる音楽データ、CDオーディオ、AVI 動画データ、MPEG動画データなどを再生できます。メディアプレーヤーを利用するには、再生機器に対応したデバイス ドライバの組み込みが必要な場合があります。詳しくは、再生機器に添付されているマニュアルをご覧ください

ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご注意...

本機には、ビデオCDなどの動画データを再生するためのソフトウェアが標準添付されていますが、98プレーヤーやメディアプレーヤーなどで動画データを再生中に、他のソフトウェアを実行させることなどにより、音飛びや画面の乱れが発生する場合があります。



Part 2

こんな機能もあります

本機を使いこなすのに便利なツールについて説明します。

- DMITOOL を利用する
- 98Timer を使う
- 他のパソコンからのリモートコントロールを受ける
- コンピュータウイルスに備える
- かな漢字変換(NECAIME95)を利用する

DMIT00Lを利用する

DMIT00Lは、パーソナルコンピュータや接続されているハードウェア情報およびインストールされているソフトウェア情報を管理するものです。管理方法として、標準化団体DMTF(Desktop Management Task Force)が規定したDMI(Desktop Management Interface)を採用しております。

DMIT00Lは、以下の4つの機能により構成されます。

- ・ システムビューア
- ・ 状態監視
- ・ MIFブラウザ
- ・ WWW Extension

操作方法・表示画面の詳細については添付のオンラインヘルプをご覧ください。

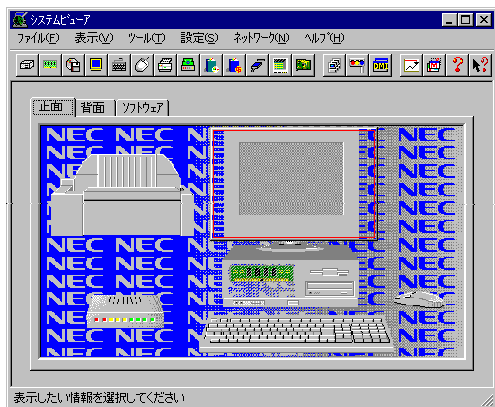
■ システムビューア

システムビューアは、パーソナルコンピュータや周辺機器についての情報を提供します。

● システムビューアの起動

[スタート]メニューの[プログラム]-[Dmitool]から[システムビューア]をクリックして起動します。

システムビューア画面が表示されます。



DMIT00Lのアプリケーションは、98Timerから起動することはできません。

● 基本的な使い方

- ・ パーソナルコンピュータや周辺機器の情報が知りたい

画面上の[正面]タブまたは[背面]タブをクリックしてください。画面の中で示される領域をクリックすることで各部の情報や現在の状態を表示します。

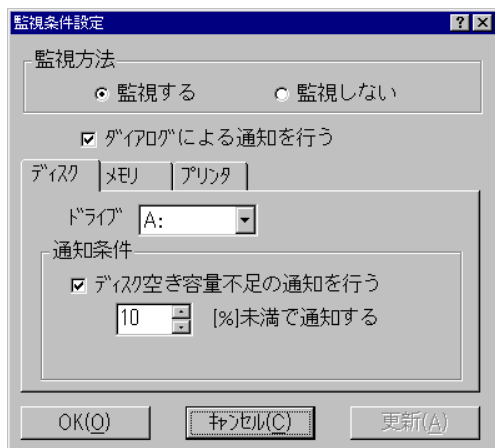
- ・ インストールされているソフトウェアの情報が知りたい

画面上の[ソフトウェア]タブをクリックしてください。画面の中で示される領域をクリックすることでインストールされているソフトウェアの情報を表示します。

- ・ HDDの空き容量を監視したい

[設定]メニューの[監視条件設定]コマンドを選択します。

[監視条件設定]画面が表示されます。



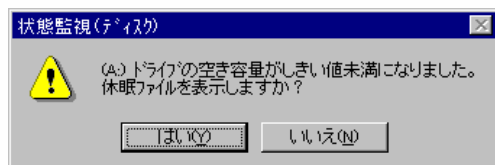
[監視条件設定]画面で[監視する]を選択した場合、以下の点に注意してください。

- ・ ディスクの監視やプリンタの監視において、ネットワークドライブやネットワークプリンタの監視を行っている場合、ネットワークドライブやネットワークプリンタの情報を取得するために定期的(約5秒間隔)にパケットが送信されます。
パケットの送信を行いたくない場合はネットワークドライブの「ディスク空き容量不足の通知を行う」およびプリンタのすべての監視項目のチェックをはずしてください。
- ・ ディスクドライブが省電力モードに切り替わらない場合があります。

[監視方法]の [監視する] をチェックします。

[監視条件設定]画面上の [ディスク] タブをクリックして、監視するドライブと通知条件を設定してください。

[ダイアログによる通知を行う] チェックボックスをチェックしておけば、空き容量が不足した場合、次のようなダイアログボックスにより利用者に通知します。



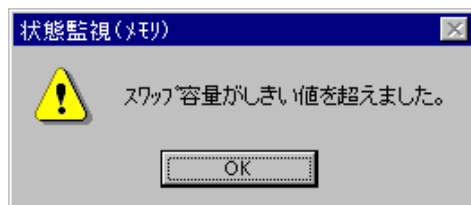
ここで、[はい] ボタンをクリックすれば、休眠ファイル 画面を表示し、長期間使用していないファイルを削除することができます。[休眠ファイル] また [情報表示 - メディア] 画面からでも表示できます。

・メモリのスワップ状態を監視したい

前述の [監視条件設定] 画面を表示します。

画面上の [メモリ] タブをクリックして、通知条件を設定してください。

[ダイアログによる通知を行う] チェックボックスをチェックしておけば、スワップ容量がオーバーした場合、次のようなダイアログボックスにより利用者に通知します。



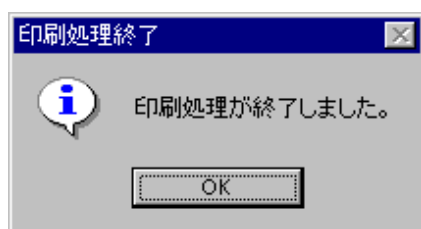
大容量のスワップはパフォーマンスの低下を招きます。パーソナルコンピュータの利用者にとって、通常の使用環境で容量の大きなスワップの発生頻度が高い場合はメモリの絶対量が不足していると思われます。

・プリンタの状態を監視したい

前述の [監視条件設定] 画面を表示します。

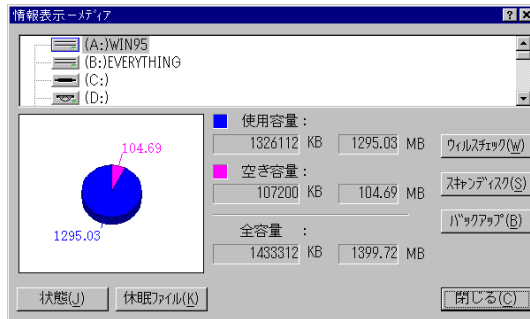
画面上の [プリンタ] タブをクリックして、通知条件を設定してください。

[ダイアログによる通知を行う] チェックボックスをチェックしておけば、通知条件にしたがって [印刷処理終了] [プリンタ異常] などのダイアログボックスにより利用者に通知します。



- ・HDDの空き容量が少なくなってきた.....長期間使っていないファイルを検索し削除したい

[表示]メニューの[正面]-[メディア情報]をクリックし[情報表示 - メディア]画面を表示します。



[休眠ファイル]ボタンをクリックすると休眠ファイル画面が表示されます。



ここで、検索条件を入力して[検索開始]ボタンをクリックすれば指定した日数以上利用されていないファイルの一覧を表示します。

一覧の中から不要なファイルを選択すれば削除することができます。



ファイルを削除する場合は十分注意しておこなってください。特にシステムファイル等、システムにとって重要なファイルを削除した場合はシステムが起動できなくなる場合があります。

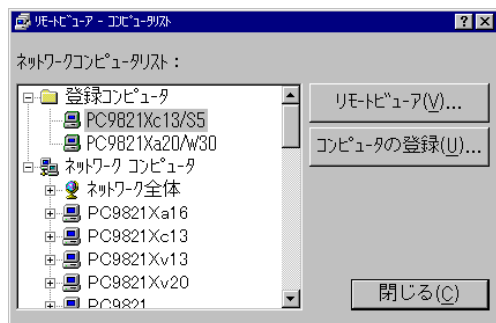
- ネットワークコンピュータの情報を参照する

ネットワークに接続されているコンピュータのハードウェアやソフトウェアの情報を表示することができます。

- ・ コンピュータの選択

[ネットワーク] メニューの [コンピュータリスト] コマンドを選択します。

[ネットワークコンピュータリスト] 画面が表示されます。



[ネットワークコンピュータリスト] から情報を参照したいコンピュータを選択し、[リモートビュー] ボタンをクリックします。

[リモートビュー] 画面が表示されます。



- ・ リモートビューの使い方

画面上の参照したい情報のタブをクリックすることで、表示内容が切り換わります。

リモートビューは、タブ選択時に一度だけ情報の収集を行います。

最新の情報を収集するには [最新情報更新] ボタンをクリックしてください。



- ・ 情報を参照できるコンピュータは「DMIT00L Ver3.0」または「DMIT00L Ver2.0」がインストールされている機種に限ります。
- ・ 使用可能な通信プロトコルは「TCP/IP」「NetBEUI」「IPX/SPX互換プロトコル」のいずれかです。
- ・ DMIT00Lでは「TCP/IP」を標準のプロトコルとしています。その他のプロトコルを使用する場合は、添付のオンラインヘルプの「リモートビューア」の章を参照してください。

なお、必ず以下のネットワークの設定を行ってから使用してください。

TCP/IPを使用する場合

自コンピュータおよび接続先コンピュータにTCP/IPプロトコルをインストールしてから使用してください。

NetBEUIを使用する場合

NetBEUIプロトコルを使用する場合には、自コンピュータのダイヤルアップネットワークプロトコルを削除してから使用してください。ダイヤルアップネットワークがインストールされていると正常に接続されない場合があります。

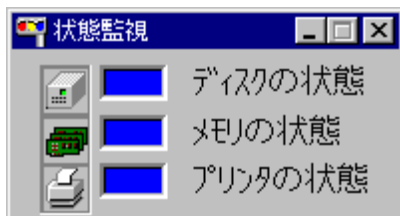
■ 状態監視

状態監視は、システムビューアの監視条件設定で設定された条件にしたがって、HDDの空き容量やメモリのスワップ状態および通常使うプリンタに設定されているプリンタの状態を監視し、リアルタイムに利用者に通知します。

● 状態監視の起動

[スタート]メニューの[プログラム]-[Dmitool]から[状態監視]をクリックして起動します。

[状態監視]画面が表示されます。



● 基本的な使い方

- ・ HDDの空き容量の状態やメモリのスワップ状態およびプリンタの状態を常に表示しておきたい

システムビューアの監視条件設定で、しきい値および通知条件を設定しておけば、状態がリアルタイム表示されます。青色が正常な状態で、赤色が何らかの異常が発生している状態です。

監視条件にしたがって何らかの異常を検出すれば、状態監視画面の表示を赤色にし、異常のあることを利用者に知らせます。

復旧すれば表示を青色に戻します。

監視条件が設定されていない場合は、表示を灰色にします。

■ MIF ブラウザ

MIFブラウザとは、コンポーネント(DMI による管理対象となっているコンピュータ本体やソフトウェアなど)がどのような管理情報を持っているかを表示したり、それらを管理したりするものです。

● MIF ブラウザの起動

[スタート]メニューの [プログラム] - [Dmtool] から [MIFブラウザ] をクリックして起動します。

[MIFブラウザ] 画面が表示されます。

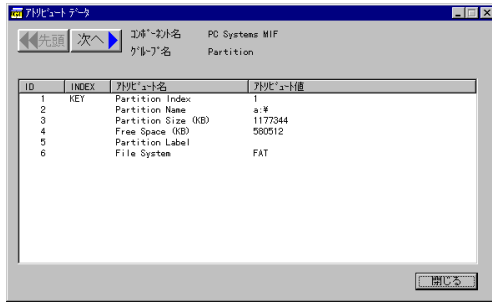


● 基本的な使い方

- ・ コンポーネントの管理情報を表示する

[MIFブラウザ] 画面で表示したいコンポーネントとグループをクリックし、[詳細] ボタンをクリックしてください。

コンポーネントの持っている管理情報が [アトリビュートデータ] 画面に [アトリビュート名] [アトリビュート値] として表示されます。



・管理情報の内容を変更する

[アトリビュート データ]画面で変更したいアトリビュート(管理情報)の ID をダブルクリックし、アトリビュートデータ入力画面で値を入力してください。



購入時に既にインストールされているコンポーネントには変更できるアトリビュートはありません。

・コンポーネントをインストールする

[MIFブラウザ]画面で[機能]メニューの[MIFインストール]コマンドを選択してインストールするコンポーネントのMIFファイルを指定してください。

・コンポーネントをアンインストールする

[MIFブラウザ]画面でアンインストールしたいコンポーネントを選択して[機能]メニューの[MIFアンインストール]コマンドを選択してください。



購入時に既にインストールされている以下のコンポーネントはDMIT00Lが動作するために必要なものです。決してアンインストールしないでください。

- ・ DMI Service Layer
- ・ DMI Service Provider MIF
- ・ Watcher MIF
- ・ DMIT00L MIF
- ・ PC System MIF

■ WWW Extension

WWW Extensionは、パーソナルコンピュータや周辺機器の情報をWWWブラウザで表示できるようにします。

● WWW Extensionの起動

[スタート]メニューの[プログラム]-[Dmitool]から[WWW Extensionセットアップ]をクリックしてセットアップを行ってください。

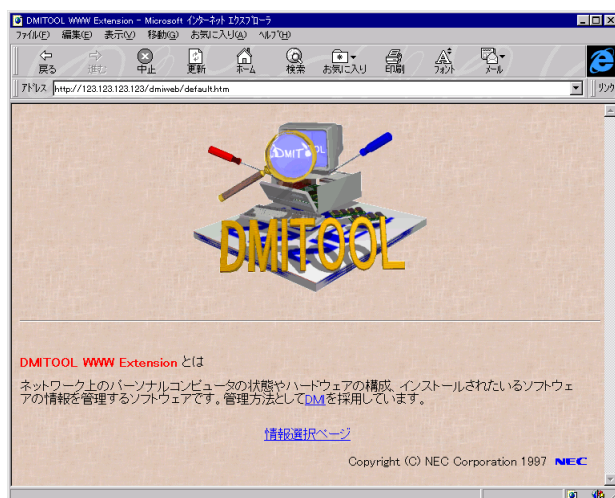
セットアップが完了しましたら、システムを再起動してください。WWW Extensionを組み込みます。

WWWブラウザを起動し、以下のページを表示してください。

`http://IPアドレス/dmiweb/default.htm`

IPアドレス:WWW ExtensionがセットアップされているマシンのIPアドレスを入力してください。

DMIT00L WWW Extensionのページが表示されます。



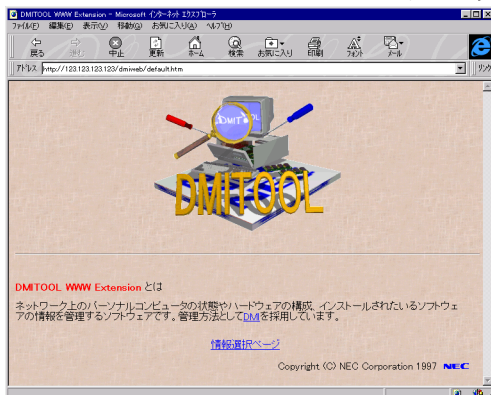


- ・ WWW Extensionをセットアップする前に、PWSをインストールしてください。
- ・ PWSとは“ パーソナル Web サーバー ”または Microsoft Peer Web Service のことで、以下の手順により、インストールできます
 - 1 [スタート]メニューから[設定]-[コントロールパネル]をクリックします。
 - 2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブをクリックします。
 - 3 [追加]ボタンをクリックし、[インストールするネットワーク構成ファイル]リストから[サービス]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。
 - 4 [製造元]リストから「Microsoft」、[ネットワークサービス]リストから「 パーソナル Web サーバー 」を選択します。

以降は画面の指示にしたがってインストールを行ってください。

●基本的な使い方

- ・ 自分の席から離れた所の身近なマシンからDMIT00Lの情報を見たい
身近なマシンにインストールされているWWWブラウザを起動します。WWWブラウザで見たいマシンのページ <http://IPアドレス/dmiweb/default.htm> を指定し、実行します。DMIT00L WWW Extensionのページが表示されます。



98Timerを使う

98Timerを使うと、指定した時間、および電話/FAX受信時に本機の電源をON/OFFしたり、アプリケーションを起動したりできます。

■98Timerの使い方

[スタート]メニューの[プログラム]から98Timerをクリックします。

[98Timer]画面が表示されます。



- ・98Timerを使用するときは、表示される日付と時刻が正しいことを確認してください。日付と時刻が正しくないときは[コントロールパネル]の[日付と時刻]を起動して日付と時刻を設定し直してください。
- ・指定した実行ファイルが、実行ファイルのあるフォルダ以外の他のフォルダにあるファイルを利用する場合は、正しく起動できない場合があります。

■自動電源ONタイマーの設定を行う

自動電源ONタイマーでは、本機の自動電源ON時刻の設定/解除と、そのときに起動するアプリケーションや終了時間を指定できます。

- 1 [スタート]メニューの[プログラム]から98Timerをクリックします。
- 2 [98Timer]画面で、自動的に電源をONにしたい曜日をクリックします。
- 3 自動的に電源をONにしたい時刻を設定します。[98Timer]画面に表示されている数字の上を左クリックすると時刻表示が1ずつ大きくなり、右クリックすると1ずつ小さくなります。表示時間は24時間モードです。
- 4 電源ON時に起動したいアプリケーションを指定します。[実行ファイル]ボタンをクリックするとファイルを指定する画面が表示されますので、起動したいファイルを指定してください。

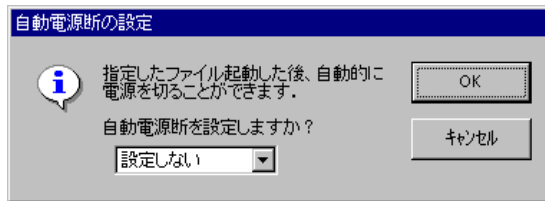


[任意指定] でプログラムファイル以外のマルチメディアファイルなどを選択することもできます。その場合は、関連付けるプログラムの設定を行ってください。関連付けるプログラムが設定されていないと、電源ON時に、エラーが発生します。関連付けるプログラムの設定については、Windowsのヘルプをご覧ください。

- 5** 曜日、時刻などを設定したら、タイマーセットボタンをクリックします。ボタン上のアイコンが黄色く表示され、タイマーが設定されます。
もう一度ボタンをクリックするとボタンの色がもとに戻りタイマーが解除されます。

一度タイマーを設定すると、もう一度タイマーを解除しない限り、毎回設定された曜日の同じ時刻に電源がONになります。

- 6** 自動的に電源をONにした後、自動的に電源をOFFにしたい場合は、終了時間設定ボタンをマウスでクリックしてください。
次の画面が表示されます。

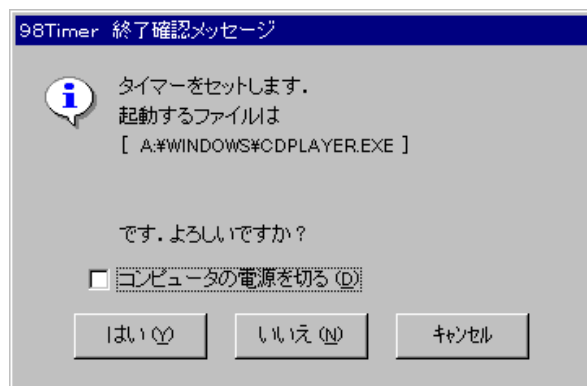


10分間隔で終了時間を設定します。自動的に電源をONにした後、設定した時間が経過すると電源をOFFにします。



通信が終了しても通信ポートを使用し続けるアプリケーション(例えば、着信指定されたFAXソフト等)を使用する場合、[通信ポートを監視する] を設定すると、いつまでも電源がOFFされません。そのようなアプリケーションを使用する場合には、[通信ポートを監視する] を設定しないようにしてください。

- 7** 設定が終了したら、[OK]ボタンをクリックします。
[終了確認メッセージ]画面が表示されます。



- 8**
- ・ 98Timerを終了した後もコンピュータを使う場合は、[コンピュータの電源を切る]のチェックをしていない状態で、[はい]ボタンをクリックします。
タイマーがセットされ、98Timerが終了します。
 - ・ 98Timerを終了した後すぐに電源をOFFにする場合は、[コンピュータの電源を切る]をチェックして、[はい]ボタンをクリックします。
 - ・ [いいえ]ボタンをクリックすると、タイマーをセットせずに98Timerを終了します。
 - ・ [キャンセル]ボタンをクリックすると、タイマー設定の画面に戻ります。



- ・ [コンピュータの電源を切る]を設定している場合、電源がOFFにならず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って処理を終了させ、Windowsを終了させてください。

■ 自動電源ONリングの設定を行う

自動電源ONリングでは、電話/FAX受信時の自動電源ONの設定/解除と、そのときに起動するアプリケーションや終了時間を指定できます。



- ・ 98Timerでは、モデム着信時に電源ONした後、一定時間で自動で電源をOFFにする設定を行うことができますが、通信中に電源をOFFにしないように電源をOFFにするまでの時間は十分に長く設定してください。
- ・ この機能を利用するには別売りのボード(PC - 9801 - 123、PC - 9801 - 125、PC - 9801 - 127 又はその他リングに対応したボード)が必要です。

・ リングの設定

98Timerを起動して、リングセットボタンをクリックするとボタンが黄色く表示され、リングが設定されます。

もう一度ボタンをクリックするとボタンの色がもとに戻りリングが解除されます。

起動アプリケーションの指定、98Timerの終了、終了時間の設定は自動電源ONタイマーと同じように行います。「■ 自動電源ONタイマーの設定を行う」の手順4および手順6以降の手順で設定してください。

・ FAXの自動受信を行う

1 ハードディスクを複数のドライブに区切って使用している場合には、電源ON直後の固定ディスク起動メニュープログラムで、Windowsディレクトリのあるドライブを選択して、**[F1]**キーを押し、自動起動を設定します。

2 モデムの着信応答の設定を、次の手順で変更します。
 デスクトップの**[受信トレイ]**アイコンをダブルクリックしてMicrosoft Exchangeを起動します。
 Microsoft Exchangeで、**[ツール]**メニューの**[サービス]**をクリックします。
 サービスの一覧から**[Microsoft Fax]**を選択し、**[プロパティ]**ボタンをクリックします。
[モデム]タブをクリックします。
 お使いのFAXモデムをクリックし、**[プロパティ]**をクリックします。
[応答までのコール数]をクリックし、呼び出し音の回数を指定します。

3 リングの**[実行ファイル]**ボタンをクリックして起動アプリケーションに¥Program Files¥Microsoft ExchangeディレクトリのExchang32.exeを指定してください。

4 リングセットボタンをクリックしてリングを設定します。

● 自動電源ON タイマーを設定するときの注意

- ・ タイマー設定を行っても、以下の場合にはタイマーによる自動電源ONは起こりません。再度、98Timerを使用してタイマー設定を行ってください。ただし、もう一度電源をONにすれば、タイマーは再設定されます。
- ・ タイマー設定をした後も継続して本機を使用し、設定した時刻よりも後で電源をOFFにした場合
- ・ タイマー設定を行い電源をOFFにしても、タイマー設定をした時刻よりも前に電源スイッチで電源をONにし、そのままタイマー設定をした時刻を過ぎてしまった場合
- ・ 本体の電源ケーブルがACコンセントに接続されていないときや停電時はタイマーによる自動電源ONは起こりません。
- ・ ハードディスクを複数のドライブに区切って使用し、自動起動に設定していない場合は、自動電源ONは起こりません。
自動起動に設定するには、
[TAB]キーを押しながら、本機の電源スイッチを押します。
固定ディスク起動メニュープログラムで、Windowsディレクトリのあるドライブを選択して[F1]キーを押し、自動起動に設定します。
- ・ パワーオンパスワードを設定している場合は、自動電源ONは起こりません。

■ 自動電源OFF タイマーの設定を行う

自動電源OFFタイマーを使うと、指定した時間に本機の電源をOFFにすることができます。

● 自動電源OFF タイマーの使い方

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]から[98Timer]をクリックし、[オフタイマ]ボタンをクリックすると、OffTimer画面が表示されます。
- 2** 画面の数字上をマウスでクリックして、時刻設定を行います。
数字上を左クリックすると時刻表示が1ずつ大きくなり、右クリックすると1ずつ小さくなります。表示時間は24時間モードです。
- 3** [OK][キャンセル]の各ボタンを左クリックして、98Timerの設定/解除を行います。
[OK] : タイマーの設定を行います。
このボタンを選択した時点で電源OFFのタイマーがセットされます。
[キャンセル] : タイマーの解除を行います。



- ・ 自動電源OFFが行われた場合、電源がOFFにならず、メッセージが表示される場合があります。その場合はメッセージに従って操作し、Windowsを終了させてください。
-

- 自動電源OFFタイマーを設定するときの注意

- ・ タイマー設定を行っても、以下の場合は、タイマーによる自動電源OFFは起こりません。
- ・ 無条件に終了できないアプリケーションが起動されていた場合
- ・ OffTimerを終了させてしまったら、Windowsを終了させてしまった場合

他のパソコンからのリモートコントロールを受ける

～ pcANYWHERE プラス(ホスト専用版)

本機の画面を、離れた場所にある他のパソコンに表示して、他のパソコンから本機を自由に操作することができます。遠隔地からのソフトウェア保守や、使用法の説明などにご利用になれます。



- ・ 本機にインストールされているpcANYWHERE プラスを使って、本機から他のパソコンを操作することはできません。
- ・ 他のパソコンから本機をリモートコントロール(遠隔操作)するためには、相手側のパソコンに、別売の「pcANYWHERE プラス」または「pcANYWHERE (Symantec 社製)」がインストールされている必要があります。詳細な使用方法については、別売の「pcANYWHERE プラス」または「pcANYWHERE (Symantec 社製)」に添付のマニュアルをご覧ください。

■ pcANYWHERE プラスの起動

pcANYWHERE を起動するには、[スタート]メニューの[プログラム]-[pcANYWHERE プラス]にある[pcANYWHERE プラス]をクリックします。

pcANYWHERE プラスを使用すると、接続している他のパソコンから、本機のハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクの内容をすべて参照することができます。また、必要に応じてファイルの内容を参照したり、修正することもできます。

■ ホスト接続項目の作成

pcANYWHERE プラスを使用して 他のパソコンから本機をリモートコントロールするためには、まずホスト接続項目を作成する必要があります。
ホスト接続項目を作成するには、次の手順で行います。

1 [ホストPC]ボタンをクリックします。



2 次のいずれかの手順を実行します。

- ・ [ホストPC項目の追加] アイコンをダブルクリックし、ウィザードを使って新しい接続項目を作成します。
- ・ ファイルメニューで [新規作成] を選択します。

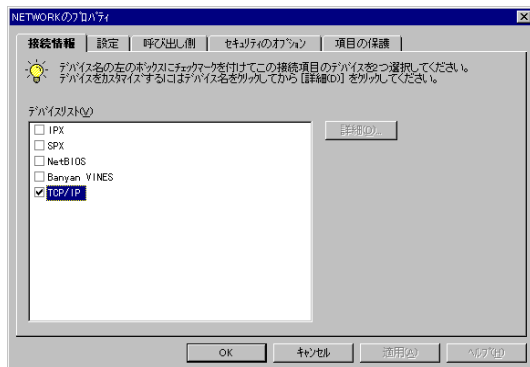
■ ネットワークプロトコルの設定

pcANYWHERE プラスは、次の5種類の通信プロトコルを選択することができます。

- ・ IPX
- ・ SPX
- ・ NetBIOS
- ・ Banyan VINES
- ・ TCP/IP

これらのプロトコルから1つを選択して設定してください。
設定は次の手順で行います。

- 1 [接続項目] をクリックし、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。または [接続項目] を右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。ホスト接続項目のプロパティシートが表示されます。



- 2 [デバイスリスト] のリストから使用するプロトコルを選択し、[OK] ボタンをクリックします。これで、設定は完了です。



ダイアルアップネットワークをインストールしている場合で、通信プロトコルに NetBIOS を選択する際は、以下の手順で Windows 95 のネットワーク設定を行ってください。

1. NetBEUI を一旦削除して再起動した後、あらためて追加する。その際、標準のプロトコルに [設定] をチェックする。
2. 本機を起動する。

■ コンピュータ名の割り当てと、パスワードの設定

コンピュータ名を割り当てて、ご利用になっているパソコンと、pcANYWHEREプラスが実行されている他のパソコンとを区別することができます。また、パスワードを設定して、他の人からpcANYWHEREプラスの実行や各種設定の変更ができないように保護することができます。



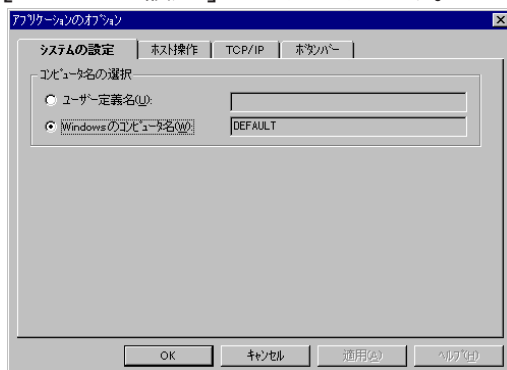
一度、マスタパスワードを設定すると、解除することができません。パスワードを忘れないように注意してください。パスワードを書き留め、安全な場所に保管することをお勧めします。

また、セキュリティ効果を発揮させるために、自分の名前など、他の人から推測できるような安易な単語をパスワードに設定しないでください。

コンピュータ名の割り当ては次の手順で行います。

1 [ファイル]メニューの[アプリケーションオプション]をクリックします。

2 [システムの設定]タブをクリックします。



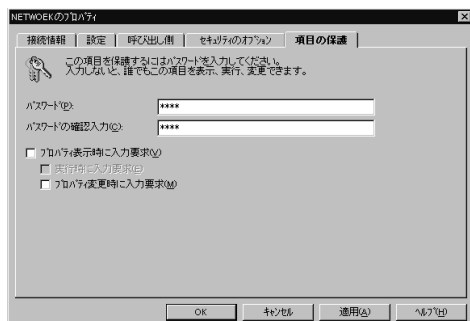
3 [ユーザ定義名]をクリックし、コンピュータ名を入力します。

4 設定が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

パスワードの設定は、次の手順で行います。

1 [接続項目]をクリックし、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。または、接続項目を右クリックし、コンテキストメニューで[プロパティ]をクリックします。

2 [項目の保護]タブをクリックします。



3 [パスワード]にパスワードを入力します。

4 保護レベル(実行時、または設定変更の保護)を選択します。次のオプションを選択してください。

- ・ プロパティ表示時に入力要求
pcANYWHERE プラスを使用してプロパティの設定を表示する際にパスワードの入力が必要となります。
- ・ 実行時に入力要求
pcANYWHERE プラスを実行する際にパスワード入力が必要となります。
- ・ プロパティ変更時に入力要求
pcANYWHERE プラスを使用してプロパティの設定を変更する際にパスワードの入力が必要となります。

5 設定が終了したら[OK]ボタンをクリックします。

■ オンラインメニューの使用

オンラインメニューを使うと、通信の切断、文字による会話(チャット)などを行うことができます。各機能の実際の使用方法については、別売のpcANYWHEREプラスなどのマニュアルをご覧ください。

オンラインメニューの表示方法は次の通りです。

pcANYWHEREのセッションアイコンをダブルクリックします。
[ホストオンラインメニュー]が表示されます。



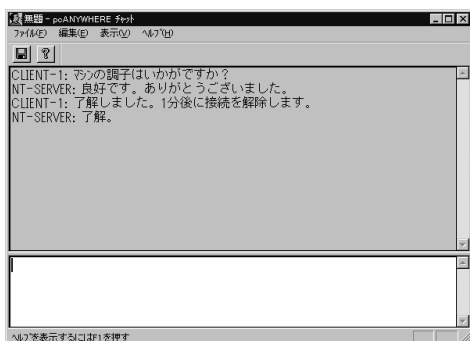


本機にプリインストールされているpcANYWHEREでは、各ウィンドウのメニューバー上で「ヘルプ」を選択することはできません。機能説明や使用方法については、別売のpcANYWHERE プラスなどのマニュアルをご覧ください。また、リリースノートに記載されている注意事項の内、本機にプリインストールされているpcANYWHEREでは使用できない機能についての項目は、別売のpcANYWHERE プラスなどをインストールした場合に必要となります。

■ 機能の紹介

pcANYWHERE プラスには、次のような機能があります。

- ・ キー入力を使用した、文字を使った対話(チャット)ができます。このとき、通知機能として、注意をうながすBeep音を鳴らすこともできます。



- ・ 画面に数字付きの矢印をつけることができます。これにより、電話やチャットで説明をする際に、画面上の位置を説明しやすくなります。



■ 利用する際の注意

次のような場合は、pcANYWHERE プラスを利用して、遠隔操作でトラブルを解決することができません。

- ・ Windows95が起動できない場合
- ・ 本体内蔵LANインターフェイスを使用していない場合、または、使用していても通信ができない場合
- ・ “ホストPC”のプロパティで「フロッピードライブへのアクセス不可」を設定している場合、他のパソコンから本機のフロッピードライブにアクセスした際に「フォーマットしますか?」というメッセージが表示されることがあります。この場合は「いいえ」を選択してフォーマットをキャンセルしてください。

コンピュータウイルスに備える ～ウイルススキャン

コンピュータを使用した日常業務で、フロッピーディスクや光ディスクを使用したデータの受け渡しや、ネットワークを通じてデータのやりとりを繰り返していると、コンピュータウイルスに感染したデータを受け取る危険性があります。コンピュータウイルスの感染に備えて、ウイルススキャンを使ってウイルスの検査が行えます。



- ・ VirusScanは、工場出荷時の状態では本機にインストールされていません。VirusScanのインストール方法については Part4 アプリケーションの削除と追加「削除したアプリケーションを再追加する」の「■VirusScanの追加」をご覧ください。

- ・ 本機に添付されているVirusScanでは、新種のウイルスを検出できない場合があります。新種ウイルスに対応するため、ウイルスデータファイルを更新する必要があります。ウイルスデータファイルは「DATファイル」という名称でネットワークアソシエイツ社のホームページに掲載されています。DATファイルは毎週最新のものにアップデートされています。下記のホームページで最新版のDATファイル入手することができます。

<http://www.nai.com/japan/>

また、インターネットに接続できる場合(プロバイダに入会済みの場合)は、「VirusScanセントラル」で「アップデート」ボタンをクリックすることにより最新版のDATファイルをダウンロードすることができます。アップデート時に「インターネットアクセス可能ですか?」と表示されたら、「はい」を選択してください。「いいえ」を選択すると、日本国外に電話をかける画面が表示されますので十分にご注意ください。なお、アップデートを中止する場合は、「キャンセル」ボタンまたは「OK」ボタンをクリックしてください。

- ・ 新種のウイルスの一部にはVirusScanそのものを最新版にバージョンアップしないと発見できないものがあります。本機に添付されているVirusScanは最新版へのバージョンアップはできません。別売のVirusScanをご購入ください。別売のVirusScanはBIGLOBEにてオンライン販売も行っております。

スキャンワクチンを使ってウイルスを検査する.....

■ウイルスの検査

ウイルススキャンを起動して、本機に接続されているディスク内のウイルスを検査します。

- 1 「ウイルススキャン」を起動します。
[スタート]メニューの[プログラム]-[McAfee VirusScan]から[McAfee VirusScan セントラル]をクリックします。



- 2** VirusScanの起動画面が表示されたら「スキャン」ボタンをクリック
次の画面が表示されます。



- 3** 検査の対象となる範囲を「編集」ボタンをクリックして設定し、「OK」ボタンをクリックします。
「アクション」タブをクリックすると「アクション」タブのウィンドウが表示されます。



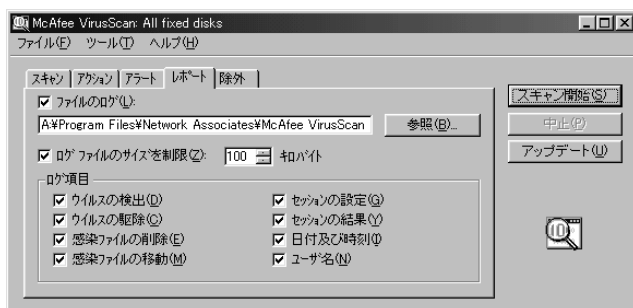
- 4** をクリックすると「ウイルス検出時」の一覧が表示されますので、一覧から、アクションを選択します。

- 5** 「ブート修復の設定」ボタンをクリックして、修復方法を選択します。
ブート修復の設定ダイアログでは、あらかじめブートを修復するOSの種別を指定します。選択項目は次の4項目です。

- ・「ウイルス発見時に指定する」
ブートウイルスを検出したときに、「修復するディスクの選択」ウィンドウを表示して、ブートの修復を行います。
- ・「MS-DOS」
MS-DOSのディスクとしてブートを修復します。この設定は不要です。
- ・「IBM-DOS」
IBM PC-DOSのディスクとしてブートを修復します。この設定は不要です。
- ・「NECPC-98」
NECPC-98のディスクとしてブートを修復します。

選択項目を指定したら、「OK」ボタンをクリックします。

6 [レポート]タブをクリックすると、[レポート]タブのウィンドウが表示されます。



ここでは次の設定を行います。

・「ファイルのログ」

用意されたテキストボックス内にログファイル名を入力するか、[参照]ボタンをクリックして任意のファイルを指定します。

入力できない場合は、チェックボタンをクリックして ☒ にしてください。

・[ログファイルのサイズを制限]

用意されたフィールド内に、10Kから999Kまでの数値を入力します。

ただし、制限値を超える場合があります。

・[ログ項目]

ファイルのログの詳細設定です。指定したい項目のチェックボタンをクリックして ☒ にしてください。

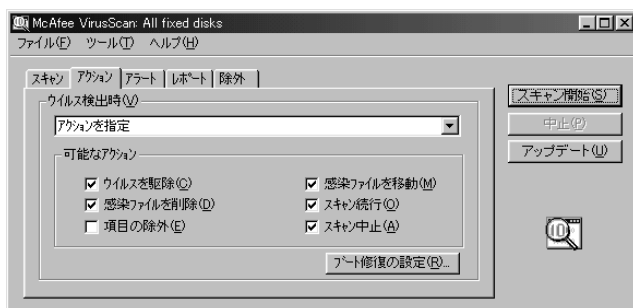
7 [スキャン開始]をクリックすると、スキャンが始まります。

ウイルスを駆除する

検出されたウイルスを駆除するには、自動的に行う方法と、手動で行う方法があります。

■自動的にウイルスを駆除する

1 「ウイルススキャン」の画面で、[アクション]タブをクリックすると、[アクション]タブのウィンドウが表示されます。





- 2 「ウイルス検出時」の一覧から「感染しているファイルからウイルスを駆除」を選択します。
感染ファイルを削除するには、「感染しているファイルを削除」を選択します。
- 3 「スキャン開始」をクリックします。
ウイルスが検出されると、自動的に駆除されます。

■手動でウイルスを駆除する

- 1 「ウイルススキャン」の初期画面で、「アクション」タブをクリックすると「アクション」タブのウィンドウが表示されます。



- 2 「ウイルス検出時」の一覧から「アクションの指定」を選択します。
- 3 「スキャン開始」をクリックします。
ウイルスが検出されると、「ウイルスが見つかりました」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ウイルスを駆除する」を選択します。
以上でウイルスの駆除は終了です。



ウイルスの検査には、この他に「常にファイルのアクセスを監視」したり、「あらかじめ設定した時間にウイルスが感染していないか検査」することができます。詳しくは、ウイルススキャンのヘルプをご覧ください。

かな漢字変換 (NECA IIME95) を利用 する

本機では、日本語を入力するための機能として、NECA IIME95を利用できます。ここでは、NECA IIME95を利用するための設定方法と、NECA IIME95の機能について説明します。日本語入力システムの切り替え方法は『Microsoft® Windows® 95 ファーストステップガイド』を参照してください。



購入時の状態では、MS-IME97が標準のかな漢字変換として設定されています。

■NECA IIME95を利用するための設定方法

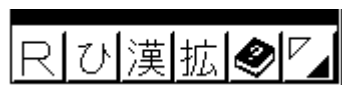
次の手順で 標準の言語 を変更してください。

- 1 [スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]をクリックし、[キーボード]をダブルクリックします。
- 2 [言語]タブをクリックして、表示されている言語のリストから[NECA IIME]を選択します。
- 3 [標準に設定]ボタンをクリックして、[標準の言語]が[NECA IIME]に変更されたことを確認してください。確認後、[OK]ボタンをクリックします。
- 4 [スタート]メニューから[Windowsの終了]を選択し、[コンピュータを再起動する]を選択して[はい]ボタンをクリックします。
再起動後、NECA IIME95を利用して日本語入力ができるようになります。

■NECA IIME95 ツールバーについて

NECA IIME95には、入力や変換などの日本語モードの状態を示したり、環境を設定したりするのに便利なNECA IIME95ツールバーがあります。
ツールバーに表示されるボタンの種類は、環境設定で変更することができます。また、ツールバーはドラッグして自由に画面上を移動することもできます。

デフォルトで表示されるツールバーと各ボタンの機能は次のとおりです。



ローマ字入力、かな入力の状態を示します。ボタンをクリックして一覧から選択してください。



-  現在の入力モードを表示します。入力モードには、全角ひらがな、全角カタカナ、全角英数、半角カタカナ、半角英数があります。
-  現在の入力方式を表示します。入力方式には、漢字に変換する、半角確定入力、固定入力があります。
-  環境設定のダイアログボックスを表示します。
-  NECA IIME95に関するオンラインヘルプを表示します。このオンラインヘルプには、日本語入力の基礎や関連知識などについて情報がありますので、ぜひ参照してください。
-  ツールバーの表示を切り替えます。ボタンをクリックすることにより、初期状態のツールバーと全ボタン表示のツールバーが切り替わります。

全ボタン表示にすると、次のようなボタンがツールバーに追加されます。



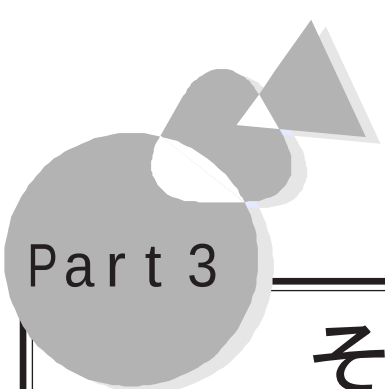
-  ファンクションキーの機能ガイドの表示/非表示を切り替えます。
-  文字の変換や修正など、日本語入力の基本的な機能を一覧から選択することができます。選択できる機能は、変換、各種変換、1文字確定、取り消し、削除、カーソル移動、文節移動、文節区切り、確定です。
-  単漢字入力の機能を一覧から選択することができます。選択できる機能は、部首変換、音読み変換、画数変換、コード入力、記号入力です。
-  辞書切り替えのダイアログボックスを表示します。
-  単語登録および削除を行うダイアログボックスを表示します。また、変換候補の削除を行うこともできます。
-  辞書保守ユーティリティを起動します。
-  優先変換モードを表示します。優先変換モードには、優先変換なし、口語優先、複合語優先があります。

■ 環境設定について

環境設定ダイアログボックスはNECA IIME95ツールバーの[拡]ボタンをクリックするか、キーボードの[F・I0]キーを押すと表示できます。



入力モード、入力方式など、日本語入力の基本的な設定を行う場合は[操作]タブを、ツールバーの表示を変更する場合は[表示]タブを、使用する辞書の設定を行う場合は[辞書]タブを、それぞれクリックし、自分の使いやすい環境に整えてください。



Part 3

その他の機能を使う

このPartでは、以前からPC-9800シリーズのコンピュータを使用している方にとって、便利な機能について説明します。

なお、これらの機能は、購入時には、本機にはセットアップされていません。

- インストールされていない機能を追加する
- LANシリーズのデータを見る
- 英語モードフォントを使用する
- DOS APインストーラ

インストールされていない機能を追加する

本機には、購入時から、すぐに使えるアプリケーションがセットアップされていますが、その他にも、以前からPC-9800シリーズのコンピュータを使用している方にとって便利な機能を、後から追加することができます。

ここでは、これらの機能のセットアップ方法を説明します。

■ セットアップする前に

セットアップする機能の概要、およびセットアップに必要なハードディスク容量について説明します。

セットアップの前に、使ってみたい機能があるかどうかを確認してください。

● 機能の概要

・ LANシリーズのクイック表示

LANWORD、LANFILE、LANPLAN/GなどのLANシリーズで作成したファイルの内容を、クイックビューアで表示できます。LANシリーズのアプリケーションを使っている場合や、LANシリーズのアプリケーションで作成したデータを持っている場合に便利な機能です。使い方については、このPartの「LANシリーズのデータを見る」をご覧ください。

・ 98環境設定ユーティリティ

本機の状態を設定するメモリスイッチを変更することができます。

使い方については「ステップアップガイド」をご覧ください。

・ 英語モードフォント

日本語モードフォントのままで、海外製Windows95アプリケーションをWindows95で利用する場合、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えることにより、正しく表示します。使い方については、このPartの「英語モードフォントを使用する」をご覧ください。

・ DOS APインストーラ

MS-DOSアプリケーションのインストールをサポートするユーティリティです。Windows95でも、MS-DOSのアプリケーションを使いたい場合に便利な機能です。使い方については、このPartの「DOS APインストーラ」をご覧ください。

・ DOSコマンド

Windows95のMS-DOSモードで使用できるコマンドです。グラフィックドライバやサウンドドライバなどがあります。

MS-DOSモードで動作するアプリケーションを、使用する場合などに便利です。使い方については「ステップアップガイド」をご覧ください。

・ DOS環境設定ユーティリティー

MS-DOSモード時に使用するCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATの編集ができます。従来からのMS-DOSの環境やMS-DOSアプリケーションを引き続き、本機でも使用したい場合に、便利な機能です。詳しくは『ステップアップガイド』をご覧ください。

・ NECAI FEP

MS-DOSプロンプト用NECAI FEPを追加します。

● セットアップに必要なハードディスク容量

DOSコマンド	約0.5Mバイト*
MS-DOSモード用グラフィックドライバ	約0.1Mバイト
MS-DOSモード用サウンドドライバ	約0.1Mバイト
MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ	約0.3Mバイト
NECAI FEP	約0.2Mバイト
USK CGMコマンド	約0.1Mバイト
ユースフルパックユーティリティ	約0.7Mバイト*
98環境設定ユーティリティ	約0.2Mバイト
DOS APインストーラ	約0.3Mバイト
DOS環境設定ユーティリティ	約0.2Mバイト
LANシリーズのクイック表示	約0.3Mバイト
英語モードフォント	約17.2Kバイト

*各合計値

上記の機能をセットアップするには、以降の「■ セットアップする」を参照してください。ただし「英語モードフォント」をご利用になる場合は、このPartの「英語モードフォント」を使用するをご覧ください。

■ セットアップする

セットアップは次の手順で行います。

- 1** 本機添付の「バックアップCD-ROM」を用意します。
- 2** [スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動して、[アプリケーションの追加と削除]を起動します。
- 3** [セットアップ]ボタンをクリックしてから、「バックアップCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、[フロッピーディスクまたはCD-ROMからのセットアップ]画面で[次へ]ボタンをクリックします。
- 4** [セットアッププログラムの実行]画面の[セットアッププログラムのコマンドライン]が<CD-ドライブ名>: ¥NSETUP.EXEになっているかを確認して、[完了]ボタンをクリックします。
- 5** [プロダクトの選択]画面で[ユースフルバックセットアップ]をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
- 6** 表示された画面で[次へ]ボタンをクリックします。
- 7** [セットアップ方法]の選択画面が表示されます。[標準]または[カスタム]を選択します。
 - ・ [標準]を選択した場合
以下のプログラム一覧の()がついたプログラムだけが追加されます。
 - ・ [カスタム]を選択した場合
セットアップしたいプログラムを、1つずつ選択できます。

DOSコマンド	MS-DOSモード用グラフィックドライバ
	MS-DOSモード用サウンドドライバ
	Mate-X/CanBeシリーズ用サウンドドライバ
	MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ
	NECAI FEP
	USKCGMコマンド
ユースフルバックユーティリティ	98環境設定ユーティリティ()
	DOS APインストラ()
	DOS環境設定ユーティリティ()
	LANシリーズのクイック表示()



8 [標準] または [カスタム] を選択したら、[次へ] ボタンをクリックします。

- ・ [標準] を選択した場合
表示された画面で、そのまま [次へ] ボタンをクリックします。
アプリケーションの追加が始まります。
- ・ [カスタム] を選択した場合
表示された画面で、追加したいアプリケーションのチェックボックスをクリック(チェックボックスにチェックマークをつける)して、[次へ] ボタンをクリックします。
選択したアプリケーションの追加が始まります。



[詳細] ボタンが表示されている場合は、それぞれのアプリケーションに含まれる機能を個別に追加できますが、お使いの環境によっては、[DOSコマンド] 中に、選択できない機能があります。



- ・ 途中で「コピー先に新しい日付のファイルが存在します。上書きしてよろしいですか」のメッセージが表示された場合、[はい] を選択してください。
- ・ 「このファイルはWindowsが使用中または書き込み禁止であるため上書きできません」のメッセージが表示されても、問題はありませんので、[OK] ボタンをクリックし、そのまま作業を継続してください。

9 「セットアップが完了しました」と表示されたら、[完了] ボタンをクリックしてください。システム設定が変更された場合、再起動を促すメッセージが表示されます。
[はい] を選択して、システムを再起動してください。

：

Part
3

その他の機能を使う

■ 削除する

不要になった機能は、次の手順で削除できます。

- 1** [スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動して、[アプリケーションの追加と削除]を起動します。
- 2** [セットアップと削除]画面の一覧から[ユースフルバックセットアップ]をクリック(反転表示)して、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3** [ユースフルバックセットアップ]画面が表示されます。[次へ]をクリックしてください。
- 4** [セットアップ方法の選択]画面で、[カスタム]を選択して、[次へ]をクリックします。
- 5** 表示された画面で、削除したアプリケーションのチェックボックスをクリックして、チェックを外します。
次のアプリケーションが削除できます。



- ・ [詳細]ボタンが表示されている場合は、それぞれのアプリケーションに含まれる機能を個別に追加できますが、お使いの環境によっては[DOSコマンド]中に、選択できない機能があります。
- ・ コントロールパネルを含めて、実行中のアプリケーションはすべて終了してから削除を行ってください

DOSコマンド	MS-DOSモード用グラフィックドライバ MS-DOSモード用サウンドドライバ Mate-X/CanBeシリーズ用サウンドドライバ MS-DOSモード用基本グラフィックドライバ NECAI FEP USKCGMコマンド
ユースフルバックユーティリティ	98環境設定ユーティリティ DOS APインストーラ DOS環境設定ユーティリティ LANシリーズのクイック表示

- 6** チェックボックスのチェックを外したら、[次へ]ボタンをクリックします。アプリケーションの削除がはじまります。
- 7** [セットアップが完了しました]と表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。システム設定が変更された場合、再起動を促すメッセージが表示されます。
[はい]を選択して、システムを再起動してください。

LANシリーズのデータを見る

～LANWORD、LANPLAN/G、LANFILE

ファイルのクイック表示

Windows 95では、Windowsベースのアプリケーションで作成されたファイルは、アプリケーションを起動しなくても、クイックビューアでその内容を簡単に表示することができます。本機では、LANシリーズで作成したファイルもクイックビューアで表示することができます。クイックビューアで表示できるLANシリーズのファイル形式については、各項をご覧ください。

■ ファイルをクイック表示する

ファイルの内容をクイックビューアで表示します。

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]から[エクスプローラ]を起動するか、またはデスクトップの[マイコンピュータ]をダブルクリックします。
- 2** 表示したいファイルを選択した状態で、マウスの右ボタンをクリックしポップアップメニューから[クイックビューア]を選択するか、同じ状態で、[ファイル]メニューから[クイックビューア]を選択してください。
[クイックビューア]が起動し、選択されたファイルの内容が[クイックビューア]ウィンドウに表示されます。

■ クイック表示するときの注意

● LANWORD文書ファイルのクイック表示の注意事項

クイック表示の対象となるファイルは、LANWORD(Windows[®] 95版、Windows[®] NT[®]版)文書ファイル(*.DWD)または文豪DP-WORDの文書ファイル(*.DWD)のみです。PTOS版LANシリーズのファイルをクイック表示することはできません。

:

Part

3

その他の機能を使う

● LANPLAN/Gワークシートファイルのクイック表示の注意事項

- ・ クイック表示の対象となるファイルは、LANPLAN/G(Windows®版、Windows®95版、Windows NT®版)ワークシートファイル(*.DST)または文豪DP-PLANのワークシートファイル(*.DST)のみです。マクロシートファイル(*.DMT)やPTOS版LANシリーズ、文豪PLANのファイルをクイック表示することはできません。
- ・ クイック表示機能はファイル内容の簡易表示を目的としています。したがって、ワークシートに設定された書式情報(罫線/パターン/文字色等)の一部は省略して表示されます。
- ・ 最大表示範囲は、20列×50行です。

● LANFILEデータベースファイルのクイック表示の注意事項

- ・ クイック表示の対象となるファイルは、LANFILE(Windows®版、Windows®95版)および文豪DP-CARD+のディレクトリファイル(*.DDR)に関連付いているデータベースファイルと送信形式ファイル(*.DDS)のみです。マクロシートファイル(*.DDM)や帳票ファイル(*.DDT)、PTOS版LANFILE、LANFOLDER、文豪CARD、文豪DP-CARDのファイルはクイック表示できません。
- ・ クイック表示機能はファイル内容の簡易表示を目的としています。したがって、ディレクトリファイルに設定された書式情報(文字色、文字フォント、文字サイズ等)の一部を省略して表示します。
- ・ 最大表示桁数は100件です。
- ・ ディレクトリファイルに関連付いているデータファイルが存在しない場合、表定義情報のみ表示します。
- ・ 表定義のみで作成したディレクトリファイルをクイック表示した場合、表定義情報のみクイック表示します。
- ・ 1レコードの最大表示幅は、340バイトです。
- ・ ディレクトリファイルに関連付いているデータファイルを読み込んでいるときにエラーが発生した場合、ディレクトリファイルのエラーとしてメッセージを表示します。

英語モードフォントを使用する

日本語モードフォントのままで、海外製Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用する場合、著作権(©)や登録商標(®)が正しく表示されません。そのため、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えて正しく表示する必要があります。また、その逆に英語モードのままで、日本語版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用する場合も、正しく表示されない文字があります。

それぞれのモードでの表示状態については、次の通りです。

	海外製Windows 95 アプリケーションを使用	日本語版Windows 95 アプリケーションを使用
日本語モードフォント	「©」→「ウ」 「®」→「ヨ」 「\」→「¥」	正しく表示される
英語モードフォント	正しく表示される	「ウ」→「©」 「ヨ」→「®」 「¥」→「\」

■ 英語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを日本語モードから英語モードに切り替えます。

- 1 [スタート]メニューの[設定]-[コントロールパネル]から[フォント]を起動します。
[Fonts]フォルダが開きます。
- 2 [ファイル]メニューの[新しいフォントのインストール]コマンドを選択します。[フォントの追加]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 CD-ROMドライブに「バックアップCD-ROM」をセットします。
- 4 [ドライブ]にCD-ROMドライブ(通常は「Q:」)を指定し、[フォルダ]で「¥usefulpk¥usfont」ディレクトリを指定します。
- 5 [フォントの一覧]のリストボックスに、「EnglishModeFixedSys (Set #6)」、「EnglishModeSystem (Set #6)」、「EnglishModeTerminal (Set #6)」が表示されることを確認してから、[すべて選択]ボタンをクリックした後、[OK]ボタンをクリックします。[Fonts]フォルダ内に英語モードフォントが追加され、英語モードフォントに切り替わります。



使用しているフォントが英語モードのままで、日本語版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用すると、「ウ」「ヨ」「¥」が正しく表示されなくなります。この場合、英語モードを日本語モードに切り替えてください。

■ 日本語モードフォントへの切り替え

使用するフォントを英語モードから日本語モードに切り替えます。

- 1** [スタート]メニューの[設定]-[コントロールパネル]から [フォント]を起動します。
[Fonts] フォルダが開きます。
- 2** [Fonts] フォルダ内の「EnglishModeFixedSys (Set #6)」、「EnglishMode System (Set #6)」、「EnglishModeTerminal (Set #6)」(実際には名前が短く表示される場合もあります)を選択し、[ファイル]メニューの[削除]を選択します。「これらのフォントを削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。[はい]ボタンをクリックすると英語モードフォントが削除され、日本語モードフォントに切り替わります。



使用しているフォントが日本語モードのままで、海外版Windows 95アプリケーションをWindows 95で利用すると、著作権(©)や登録商標(®)が正しく表示されなくなります。この場合、日本語モードを英語モードに切り替えてください。

DOS AP インストーラ

Windows 95の動作環境を変更せず、MS-DOSアプリケーションのインストールを行うことができます。また、既にインストールされているMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成したり、使用しているデバイスドライバの内容を確認/修正することもできます。



ここで「ショートカットを作成する」とは、「[スタート]メニューにアプリケーションを登録する」という意味です。

■DOS AP インストーラをお使いになる前に

次のようなMS-DOSアプリケーションは、Windows上では実行できません。

- ・ フロッピーディスクからの起動が必要なアプリケーション
このようなアプリケーションは、Windowsを終了してMS-DOSモードで再起動してから実行してください。起動方法の詳細については、アプリケーションに添付しているマニュアルをご覧ください。
- ・ ADDDRVコマンドに対応していないかな漢字変換機能を利用するアプリケーションや、終了後MS-DOSに戻らないアプリケーション
このようなアプリケーションは、後述の「アプリケーションを利用する際の注意」をご覧ください。

また、次のようなアプリケーションはDOS AP インストーラではインストールできません。

- ・ インストール中またはインストール後にコンピュータを自動的に再起動するアプリケーション
このようなアプリケーションは、MS-DOSモードでコンピュータを再起動して、手作業でインストールしてください。
手作業によるアプリケーションのインストールについては後述の「手作業によるアプリケーションの登録」をご覧ください。
インストール中またはインストール後にコンピュータを自動的に再起動するかどうかは、アプリケーション添付のマニュアルをご覧ください。

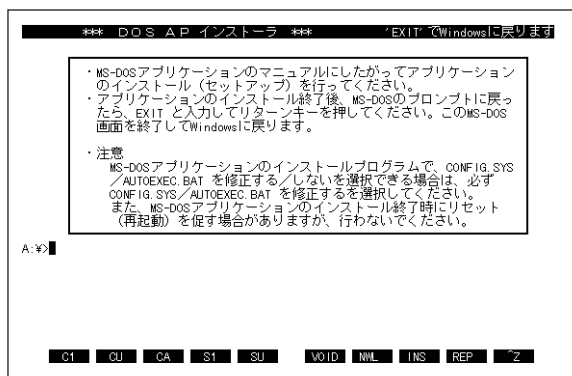
MS-DOSアプリケーションをインストールして ショートカットを作成する.....

DOS AP インストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションをインストールした後、ショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

■DOS AP インストーラでのインストール

MS-DOSアプリケーションをDOS AP インストーラを使用してインストールします。

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション]からDOS APの登録を起動します。
[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されて、インストールに必要な手順や注意事項が説明されますので、確認しながら次へボタンをクリックして進めてください。
- 2** MS-DOSプロンプトが起動して、MS-DOSプロンプトのDOS AP インストーラの画面が表示されます。インストールするMS-DOSアプリケーションのインストール手順にしたがって、インストールを行ってください。



- MS-DOSアプリケーションのインストール中にCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの変更を選択する場面がある場合は、必ず「変更する」を選択してください。
- インストールに際して必要なファイルがハードディスクに存在しない場合、以降の操作が正しく実行できない場合があります。



MS-DOSアプリケーションのインストール方法については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

- 3** MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、「EXIT」と入力するとWindows 95の画面に戻ります。



MS-DOSアプリケーションのインストール後、リセット(再起動)の指示がありますが、絶対に行わないでください。必ずインストール終了後は「EXIT」と入力して、Windows 95の画面に戻ってください

DOS APインストーラでインストールできなかった場合は、後述の手作業によるアプリケーションの登録を参照してインストールしてください。

- 4** 引き続き、[DOSアプリケーションの登録]ダイアログボックスが表示されて、インストールしたMS-DOSアプリケーションを[スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション]フォルダに登録する作業が行われますので、[次へ]ボタンをクリックして、これ以降の「■インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成」の手順に進んでください。また、登録しない場合は、[終了]ボタンをクリックして[DOS APインストーラ]を終了してください。

■インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

インストールしたMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- 1** MS-DOSアプリケーションの起動方法を選択する画面で、[コマンドで起動]または[自動的に起動]のどちらかを選択した後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 2** MS-DOSアプリケーションを起動するコマンド名を入力する画面で、コマンド名にはMS-DOSアプリケーションの起動コマンドを入力するか、[参照]ボタンをクリックして起動用に作成、インストールした実行ファイル(*.EXE)、バッチファイル(*.BAT)またはコマンドファイル(*.COM)を選択した後、[OK]ボタンをクリックしてください。選択したコマンドを表示しますので、確認した後、[次へ]ボタンをクリックしてください。



MS-DOSアプリケーションの起動コマンドについては、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

- 3** 起動するMS-DOSアプリケーションの登録名を指定する画面が表示されますので、アプリケーション名を入力した後、[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 4** MS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数を設定する作業が行われますので、これ以降の「■MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集」の処理を進めてください。ショートカットの作成が必要ない場合は、[終了]ボタンをクリックして[DOS APインストーラ]を終了してください。

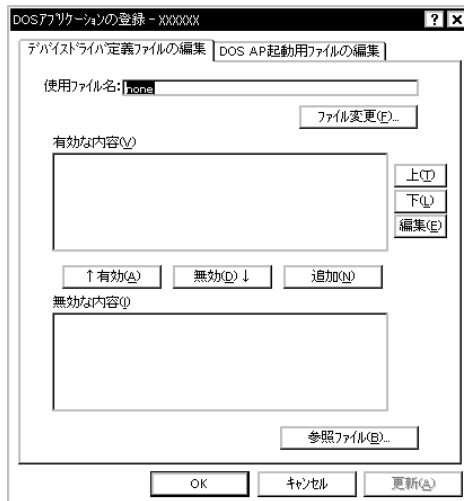


MS-DOSアプリケーションの起動に必要なデバイスドライバや環境変数については、MS-DOSアプリケーションに添付されているインストールまたはセットアップ関連のマニュアルをご覧ください。

■MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集

インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用デバイスドライバ、環境変数を設定します。ただし、MS-DOSアプリケーションのインストール時にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが変更された場合は、この処理は行えません。

- 1 [オプション] ボタンをクリックします。[DOSアプリケーションの登録]の[デバイスドライバ定義ファイルの編集]タブの画面が表示されます。



- 2 デバイスドライバを新規に追加する場合は、[追加] ボタンをクリックすると、デバイスドライバを選択する画面が表示されます。[ファイルの場所] [ファイル名] デバイスドライバ名:*.DRV を選択した後、[開く] ボタンをクリックすると [有効な内容] に新規に追加したデバイスドライバが表示されます。



[追加]は、Windowsの[マイ コンピュータ]または[エクスプローラ]の[表示] - [オプション] を実行して、[すべてのファイルを表示] をチェックしてから行ってください。

- 3 すでに設定されているデバイスドライバを削除する場合は、[有効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[無効↓] ボタンをクリックします。デバイスドライバが[無効な内容]に移動します。
一度、削除したデバイスドライバを設定する場合は、[無効な内容]に表示されているデバイスドライバを選択した後、[↑有効] ボタンをクリックします。

- 4 デバイスドライバの設定内容が変更できたら、[更新] ボタンをクリックしてください。デバイスドライバの設定内容が更新されます。引き続き、環境変数の設定内容の変更を行いたい場合は、[DOS AP起動用ファイルの編集]タブをクリックしてください。[DOS AP起動用ファイルの編集]タブの画面が表示されますので、これ以降の「■MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集」の処理を進めてください。必要ない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして「■MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定」の処理に進んでください。



- ・すでに設定されているデバイスドライバを編集したり、パラメータを変更する場合は、[有効な内容] に表示されているデバイスドライバを選択した後、[編集] ボタンをクリックします。[指定行の修正] ダイアログボックスが表示されます。行の修正をした後、[更新] ボタンをクリックすると、デバイスドライバのパラメータが更新されます。
- ・他のアプリケーションで使っているデバイスドライバ定義ファイルを共有する場合は、[ファイル変更] ボタンをクリックして共有するファイルを選択してください。

■MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集

インストールしたMS-DOSアプリケーション起動用環境変数を設定します。

- 1 [DOS AP起動用ファイルの編集] タブの画面で環境変数を新規に追加する場合は、[追加] ボタンをクリックすると、環境変数を入力するための画面が表示されます。環境変数を入力した後、[更新] ボタンをクリックすると、[有効な内容] に表示されます。
- 2 すでに設定されている環境変数を削除する場合は、[有効な内容] に表示されている環境変数を選択した後、[無効 ↓] ボタンをクリックします。環境変数が [無効な内容] に移動します。
削除した環境変数を設定する場合は、[無効な内容] に表示されているデバイスドライバを選択した後、[↑ 有効] ボタンをクリックします。
- 3 環境変数の設定内容が変更できたら、[更新] ボタンをクリックして、[OK] ボタンをクリックしてください。環境変数の設定内容が更新されて、メモリサイズを設定する画面に進みます。メモリサイズの設定が必要な場合は、「■MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定」の処理を進めてください。

■MS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズの設定

インストールしたMS-DOSアプリケーションの起動用メモリサイズを設定します。

- 1 [オプション] ボタンをクリックすると、MS-DOSアプリケーションを実行するディレクトリを設定する画面が表示されます。



：

Part

3

その他の機能を使う

- 2** 実行するディレクトリ名を入力した後、[次へ] ボタンをクリックします。設定内容が有効になり、メモリサイズを設定する画面に進みます。



- 3** [コンベンショナルメモリ] [EMSメモリ] [XMSメモリ] [環境変数の初期サイズ] を設定した後、[次へ] ボタンをクリックします。コマンド、実行ディレクトリ、メモリサイズの設定を確認する画面が表示されます。
- 4** 設定を確認した後、[次へ] ボタンをクリックします。MS-DOSアプリケーションが、[スタート] メニューからアイコンを選択することで起動できるようになります。

● MS-DOSアプリケーションのショートカットの起動

MS-DOSアプリケーションのショートカットを起動するには、次の2つの方法があります。

- [スタート] メニューの [プログラム] - [DOSアプリケーション] からMS-DOSアプリケーションのショートカットをクリックする
- [マイ コンピュータ] や [エクスプローラ] から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラムにある [DOSアプリケーション] フォルダを開いて、MS-DOSアプリケーションのショートカットをダブルクリックする

MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する.....

DOS APインストーラを使用して、新しくMS-DOSアプリケーションのショートカットを作成するには、次の手順で行ってください。

■MS-DOSアプリケーションのショートカットの作成

MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成します。

- 1** [DOS APショートカットの作成] を起動すると、[DOSアプリケーションの登録] ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 画面に表示される指示にしたがって、[次へ] ボタンをクリックして処理を進めてください。ハードディスクにインストールされているMS-DOSアプリケーションを起動するコマンドを入力する画面が表示されます。起動コマンドを入力するか、[参照] ボタンをクリックして起動用に作成、またはインストールされている実行ファイル(*.EXE)、バッチファイル(*.BAT)またはコマンドファイル(*.COM)を選択した後、[OK] ボタンをクリックしてください。
- 3** アプリケーション名を設定する画面が表示されますので、アプリケーション名を入力した後、[次へ] ボタンをクリックしてください。以降のデバイスドライバ、環境変数、メモリサイズの設定は、前述の「MS-DOSアプリケーションをインストールしてショートカットを作成する」で行ったのと同じ手順で設定してください。MS-DOSアプリケーションのショートカットが、[スタート]メニューの[プログラム]から[DOSアプリケーション]に登録されます。

■MS-DOSアプリケーションのショートカットの起動

MS-DOSアプリケーションのショートカットを起動するには、次の2つの方法があります。

- ・ [スタート]メニューの[プログラム]-[DOSアプリケーション] からMS-DOSアプリケーションのショートカットをクリックする
- ・ [マイ コンピュータ]や[エクスプローラ] から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラムにある[DOSアプリケーション] フォルダを開いて、MS-DOSアプリケーションのショートカットをダブルクリックする

■MS-DOSアプリケーションのショートカットのデバイスドライバ、環境変数を変更する

ショートカットのデバイスドライバの内容を変更します。

- 1** デバイスドライバの内容を確認するショートカットアイコンを選択します。ショートカットアイコンにマウスカーソルを近づけたまま右クリックするか、または[エクスプローラ]の[ファイル]メニューを選択し、[デバイスドライバの変更]を選択してください。使用しているデバイスドライバの一覧が表示されます。

- 2** 以降のデバイスドライバと環境変数の設定については、「■ MS-DOSアプリケーションのデバイスドライバ定義ファイルの編集」と「■ MS-DOSアプリケーションの起動用ファイルの編集」の手順を繰り返します。

DOS AP インストーラの注意事項.....

- かな漢字変換ドライバのみの登録はできません。
- MS-DOSアプリケーションのインストール終了後、自動的にリセットを行う電源スイッチを押す以外の操作を受け付けない場合も含まれます。MS-DOSアプリケーションは登録できません。
- MS-DOSアプリケーションのインストール途中でエラーが発生した場合は、環境設定ファイル(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BAT)は変更されたままの状態になります。
- ブロックデバイスを使用するMS-DOSアプリケーションは、正常に動作しないことがあります。
- 起動コマンドにバッチファイル(*.BAT)を指定しているアイコンを起動した場合、アプリケーションを終了してもMS-DOSプロンプトが終了しないことがあります。EXITと入力してMS-DOSプロンプトを終了させてください。
- MS-DOSアプリケーション固有のかな漢字変換ドライバを使用するMS-DOSアプリケーションは、MS-DOSプロンプトが起動した後でかな漢字変換ドライバを使用する環境を作成(CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを変更し)、MS-DOSアプリケーションのインストールを行ってください。
- MS-DOSアプリケーションの動作時に必要な設定を手作業で行う場合は、MS-DOSプロンプト終了前に行ってください。
- Windows 95 で使用できないドライバをCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATに追加するMS-DOSアプリケーションを登録しようとすると、「MS-DOSアプリケーションのインストール時に変更したCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATファイルの内容を元に戻しますか」という確認ダイアログが表示されます。この場合、通常は「はい」を選択してください。「いいえ」を選択すると、Windowsが起動しなくなることがあります。
- MS-DOSアプリケーションのインストールを行ったことによりWindowsが起動しなくなった場合は、次の手順で環境を元に戻してください。

キーボードの[F8]キーを押した状態で本機を再起動し、WindowsをSafeモードで起動します。

[スタート]メニューの[プログラム]から[エクスプローラ]を起動し、[表示]メニューの[オプション]を選択します。



[表示]タブを選択し、[すべてのファイルを表示]を選択して[OK]ボタンをクリックします。

[エクスプローラ]から¥Windows¥スタートメニュー¥プログラム¥DOSアプリケーションにある[DATA]フォルダを開きます。

次のファイルがあることを確認してください。

確認するファイルは、手順 5 の操作を行ったときの状況によって異なります。

- ・ MS-DOSアプリケーションのインストール中に再起動した場合
`x_CONF.SYS`
`x_AUTO.BAT`
 (xはドライブ名)
- ・ MS-DOSアプリケーションのインストール後に環境を元に戻さなかった場合
`x_CONF.yyy`
`x_AUTO.yyy`
 (xはドライブ名、yyyはファイル番号を示します。同じファイル名でファイル番号が異なるファイルが複数ある場合はファイル番号の大きいファイルを選択してください)

手順 5 で選択した2つのファイルを、ドラッグアンドドロップでドライブのルートディレクトリにコピーします(元の`CONFIG.SYS`、`AUTOEXEC.BAT`は削除しておきます)

コピーしたファイルを選択し、[ファイル]メニューの[名前の変更]を選択してファイル名を次のように変更します。

`x_CONF.SYS` / `x_CONF.yyy` → `CONFIG.SYS`
`x_AUTO.BAT` / `x_AUTO.yyy` → `AUTOEXEC.BAT`

手作業によるアプリケーションの登録.....

DOS APインストーラでインストールできないアプリケーションは、本項の説明を参考にして登録してください。以下に具体的な操作手順を説明します。あらかじめ、フォーマット済みのフロッピーディスクを1枚用意してください。なお、説明は以下の前提で行います。お使いのシステム構成と異なる場合は、読み替えてください。

- ・ Windowsがインストールされている内蔵ハードディスク :Aドライブ
- ・ フロッピーディスクドライブ :Bドライブ

DOS APインストーラでインストールしようとして成功しなかった場合は、手順1から順に、そうでない場合は手順7からお読みください。

- 1** [スタート]メニューの[プログラム]-[エクスプローラ]をクリックします。[エクスプローラ]ウィンドウが表示されます。
- 2** [表示]メニューの[オプション]をクリックすると[オプション]ウィンドウが表示されます。[表示]タブを選択し、[すべてのファイルを表示]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3** エクスプローラから¥Windows¥スタートメニュー¥プログラム¥DOSアプリケーションにある DATA フォルダを開きます。
- 4** [X_AUTO.BAT] [X_CONF.SYS] (Xはドライブ名)の2つのファイルをドラッグアンドドロップでドライブのルートディレクトリにコピーします(元の CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは削除しておきます)。
- 5** コピーしたファイルを選択し、[ファイル]メニューから[名前の変更]を選択して、X_AUTO.BAT はAUTOEXEC.BATに、X_CONF.SYSはCONFIG.SYSに名前を変更します。
- 6** コピーしたファイルを選択し、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選択して、[属性]の[隠しファイル]のチェックマークを消します。
- 7** フォーマット済みのフロッピーディスクをBドライブに挿入し、Windowsの[エクスプローラ]を利用して、AドライブのルートディレクトリにあるCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの2つのファイルをBドライブにコピーします。
- 8** Bドライブにコピーしたファイルの名前を、それぞれCONFIG.NEC、AUTOEXEC.NECに変更します。
- 9** フロッピーディスクを取り出します。
- 10** 起動中のアプリケーションをすべて終了し、[スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択し、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択します。
- 11** MS-DOSモードで再起動したらアプリケーションをインストールします。



インストール中にCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATを書き替えてもよいかどうか確認されたら、「書き替えない」を選択してください。確認メッセージが表示されなかった場合は、アプリケーションのインストール終了後、手順7で用意したフロッピーディスクをドライブに挿入して、コマンドプロンプトから次のように入力します。

```
COPY B:¥CONFIG.NEC A:¥CONFIG.SYS
```

```
COPY B:¥AUTOEXEC.NEC A:¥AUTOEXEC.BAT
```

また、アプリケーションのインストール先や起動ドライブとしてAドライブ以外のドライブを指定した場合、そこにCONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATが存在するとそれらのファイルが書き替えられる可能性があります。その場合は、上記手順を参考にして、該当ドライブのCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATを復元してください。

- 12** 「EXIT」を入力してコンピュータを再起動します。これ以降は前述の「MS-DOSアプリケーションのショートカットを作成する」を参照してください。

アプリケーションを利用する際の注意.....



市販のMS-DOSアプリケーションには、使用するMS-DOSのバージョンを指定しているものがあります。ご使用の際には、アプリケーションが動作するMS-DOSのバージョンを確認してください。

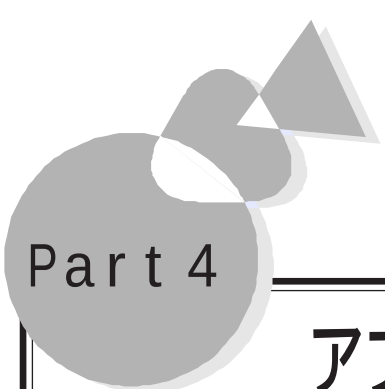
- ADDDRVコマンドでかな漢字変換用デバイスドライバが組み込めないアプリケーション、または終了してもMS-DOSに戻らないアプリケーションの実行方法

- 1** [エクスプローラ]で目的のプログラムのアイコンを選択します。
- 2** [ファイル]メニューの[プロパティ]を選択します。
- 3** [プロパティ]ウィンドウで[プログラム]を選択し、[詳細設定]ボタンをクリックします。
- 4** [MS-DOSモード]にチェックマークをつけ、[新しいMS-DOS設定を指定する]を選択します。
- 5** [MS-DOSモード用CONFIG.SYSファイル]と[MS-DOSモード用AUTOEXEC.BATファイル]を記述します。

- 6** [OK]ボタンをクリックして[プロパティ]のウィンドウに戻ります。
- 7** [OK]ボタンをクリックして[プロパティ]のウィンドウを閉じます。
- 8** [スタート]メニューの[Windowsの終了]を選択し、[MS-DOSモードでコンピュータを再起動する]を選択し、[はい]ボタンをクリックします。
- 9** コンピュータが再起動したらアプリケーションを実行します。

- 登録したアプリケーションの実行環境を詳細に設定するには
各プログラムの[プロパティ]で設定を行います。詳細はヘルプの[キーワード]画面で[MS-DOSプログラム]の項目を検索し参照してください。
- 登録したアプリケーションにオリジナルのアイコンを割り当てるには
各プログラムの[プロパティ]で設定を行います。次の手順でアイコンを割り当ててください。

- 1** [エクスプローラ]で目的のプログラムを選択します。
- 2** [ファイル]メニューから[プロパティ]を選択します。
- 3** [プロパティ]ダイアログボックスで[プログラム]を選択し、[アイコンの変更]ボタンをクリックします。
- 4** [アイコンの変更]ダイアログボックスでアイコンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
- 5** [OK]ボタンをクリックして[プロパティ]のウィンドウを閉じます。



Part 4

アプリケーションの削除と追加

本機に標準でインストールされているアプリケーションの削除方法と削除したアプリケーションの再追加方法について説明します。

ここではWindows 95およびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。よくご理解のうえ、ご利用ください。

- アプリケーションを削除する
- 削除したアプリケーションを再追加する

アプリケーションを削除する

本機に標準で添付されているアプリケーションの削除の方法について説明します。

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。

なお、購入後にインストールされたアプリケーションの削除方法については、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。



アプリケーションによっては、削除したときに、一部のディレクトリおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットが残ることがあります。この状態でも本機を操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。

アプリケーションを削除する時、「共有ファイルを削除するかどうか」のメッセージが表示される場合がありますが、共有ファイルは削除しないでください。削除すると、他のアプリケーションに影響を及ぼす場合があります。

● コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションが削除できます。手順については「コントロールパネルを使って削除する」を参照してください。

- ・ ユースフルパックセットアップ
 - DOS コマンド
 - ユースフルパックユーティリティ
- ・ 添付アプリケーションセットアップ
 - 98プレーヤー
 - Hover
 - PCIセットアップ ユーティリティ
 - 補足説明
- ・ 98Timer
- ・ DMIT00L
- ・ インターネットエクスプローラ
- ・ Microsoft Chat 2.0*
- ・ Microsoft NetShowプレーヤー*
- ・ Microsoft Wallet*
- ・ Real Player 4.0*



- ・ ユースフルバックセットアップのアプリケーションを削除する場合は、Part3「その他の機能を使う」をご覧ください。
- ・ *があるものは、インターネットエクスプローラ4.0をインストールした場合のみ削除できます。

● アプリケーションのアンインストール機能を使うもの

次のアプリケーションが削除できます。手順については「アンインストール機能を使って削除する」を参照してください。

- ・ pcANYWHERE プラス
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティ
- ・ VirusScan
- ・ NEC SoftMPEG1.0

コントロールパネルを使って削除する

■ 削除の準備

- 1** Windows 95を起動します。
- 2** [スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動します。
- 3** [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を起動します。
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。
- 4** [セットアップと削除]タブが選択されていることを確認します。
選択されていない場合は[セットアップと削除]タブをクリックします。

この画面で次のアプリケーションを削除できます。すでに削除しているアプリケーションはこの画面には表示されません。

- ・ ユースフルパックセットアップ
- ・ 添付アプリケーションセットアップ
- ・ DMIT00L
- ・ インターネットエクスプローラ
- ・ Microsoft Chat 2.0
- ・ Microsoft Netshowプレーヤー
- ・ Microsoft Wallet
- ・ Real Player 4.0
- ・ 98Timer

■ 添付アプリケーションの削除

次の手順で添付アプリケーションを削除します。

- 1** 「■ 削除の準備」の手順1～4を行います。
- 2** [セットアップと削除]画面の一覧から「添付アプリケーション セットアップ」をクリック(反転表示)して、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3** [添付アプリケーション セットアップ]の画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 4** [セットアップ方法の選択]の画面で「カスタム」を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 5** 表示された画面で、削除したいアプリケーションのチェックボックスをクリックして、チェックを外します。
次のアプリケーションが削除できます。
 - ・ 98プレーヤー
 - ・ Hover
 - ・ PCIセットアップユーティリティ
 - ・ 補足説明
- 6** チェックボックスのチェックを外したら、[次へ]ボタンをクリックします。
アプリケーションの削除がはじまります。
- 7** 「セットアップが完了しました」と表示されたら「完了」ボタンをクリックします。
システム設定が変更された場合は再起動を促すメッセージが表示されます。
他のソフトウェアを削除する場合は、「いいえ」を選択して、引き続き削除を行ってください。
削除を終了する場合は、「はい」を選択して、システムを再起動してください。

■ Microsoft Internet Explorer 5とインターネットツールの削除

次の手順でMicrosoft Internet Explorer 5とインターネットツールを削除します。

- 1** 「■ 削除の準備」の手順1～4を行います。
- 2** 「セットアップと削除」の一覧から「Microsoft Internet Explorer 5とインターネットツール」をクリックし、「追加と削除」ボタンをクリックします。
- 3** 「Internet Explorer 5とインターネットツール」の画面で「以前のWindowsの設定に戻す」にチェックを付け、「詳細」ボタンをクリックします。
- 4** 「Internet Explorer 5とインターネットツール」の画面で「以前にインストールしたInternet Explorerおよび次に選択したWindowsのコンポーネントを元の状態に戻す」にチェックを付け、削除するコンポーネントにチェックを付けて「OK」ボタンをクリック

Microsoft FrontPage Express
Microsoft Outlook Express 5
Microsoft Web発行ウィザード 1.6
Microsoft Windows Media Player 6.4
NetMeeting 3.01

- 5** 「既にセットアップされているコンポーネントを検索しています」のメッセージの後に「以前のバージョンのInternet Explorerと共有コンポーネントに戻すには、[OK] をクリックしてください。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
以前のバージョンのInternet Explorerに戻しますか?と表示されたら「はい」ボタンをクリックします。
- 6** 削除が始まります。削除には数分かかります。



「Internet Explorer 5をアンインストールしますか?」と表示された場合は「はい」ボタンをクリックしてください。「セキュリティの警告」が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

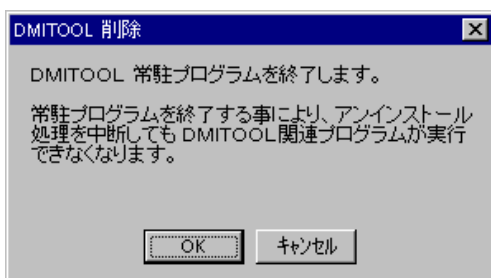
- 7** 「以前のバージョンのInternet Explorerに戻すにはWindowsを再起動する必要があります。」と表示されたら「Windowsの再起動」ボタンをクリックします。
自動的に再起動されます。
- 8** 再起動後、「ファイルの種類をActive Movieに関連付けて、すべて再生できるようにしますか?」が表示された場合は「はい」ボタンまたは「いいえ」ボタンをクリック



通常Active Movieに関連付けられるファイルの種類の中に、現在ほかのプログラムに関連付けられているものがあります。そのため、マルチメディアのファイルの種類によっては、再生されないものがあります。

■DMIT00Lの削除

- 1** DMIT00L WWW Extensionの削除を行います。(DMIT00L WWW Extensionをセットアップしていない場合には、7の手順から初めてください)
- 2** PWS(“ パーソナル Web サーバー ”または“ Microsoft Peer Web Service ”)を停止してください。
- 3** 「 ■ 削除の準備 」の手順1～3を行います。
- 4** 「 ■ 削除の準備 」の手順4で[DMIT00L WWW Extension]を選択し、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 5** 次の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



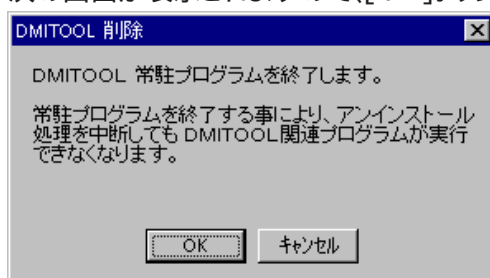
- 6** 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」と表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。これで、DMIT00L WWW Extensionプログラムの削除が開始されます。

7 DMITOOL関連のアプリケーションが起動されていないことを確認してください。
次のアプリケーションがDMITOOL関連のアプリケーションです。

- ・ システムビューア
- ・ 状態監視
- ・ MIFブラウザ
- ・ 休眠ファイル

8 「■ 削除の準備」の手順1～4を行います。

9 [セットアップと削除]画面の一覧から[DMITOOL]をクリック(反転表示)して、
[追加と削除]ボタンをクリックします。
次の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。

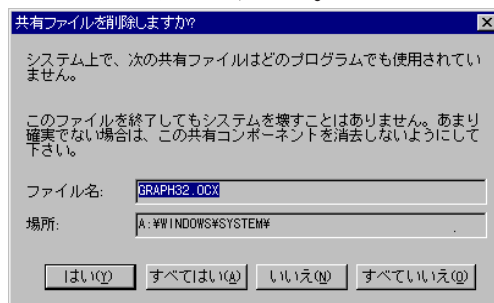


10 「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」
と表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。これでプログラムの削除が開始されます。



[いいえ]を選択し、削除を中断した場合には、システムを再起動してから
DMITOOLを使用してください。

11 削除を開始して間もなく次の画面が表示されます。ここでは必ず[すべていいえ]
ボタンをクリックしてください。

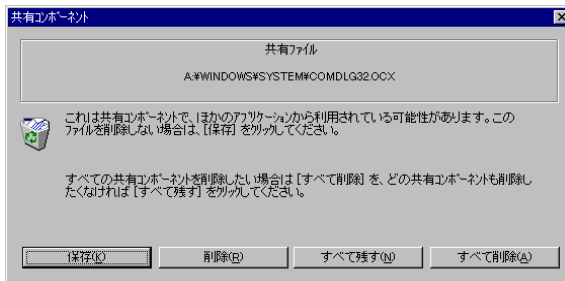


12 [コンピュータからプログラムを削除]の画面が表示されます。
画面にアンインストールが完了した旨が表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

■ 98Timer の削除

次の手順で98Timerを削除します。

- 1 「■ 削除の準備」の手順1～4を行います。
- 2 [セットアップと削除]画面の一覧から「98Timer」をクリックして、[追加と削除]ボタンをクリックします。
- 3 「98Timerとそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」のメッセージが表示されます。削除する場合には[はい]ボタンをクリックしてください。98Timerの削除がはじまります。
- 4 [共有コンポーネント]画面が表示されたら、[すべて残す(N)]ボタンをクリックします。



- 5 「削除されました」のメッセージが表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

アンインストール機能を使って削除する.....

■pcANYWHERE プラスの削除

1 [スタート]メニューの[プログラム]-[pcANYWHERE プラス]にある[pcANYWHERE プラスの削除]をクリックします。

2 [パス名]が表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

3 「pcANYWHERE32 プラスを削除しました。」というメッセージが表示されますので、[完了]ボタンをクリックします。

自動的に再起動されます。

以上で削除は完了です。

■海外ゲーム対応ユーティリティの削除

1 [スタート]メニューの[プログラム]から[海外ゲーム対応ユーティリティ]-[海外ゲーム対応ユーティリティの削除]をクリックします。

2 「海外ゲーム対応ユーティリティを削除します。」と表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

3 「海外ゲーム対応ユーティリティの削除を開始します。」と表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

4 「海外ゲーム対応ユーティリティの削除が終了しました。」と表示されたら[終了]ボタンをクリックします。

以上で削除は完了です。

■VirusScanの削除

次の手順でVirusScanを削除します。

1 「■削除の準備」の手順1～4を行います。

2 「セットアップと削除」の画面の一覧から「McAfee VirusScan v4.0.3a(プレイインストール版)」をクリックし、[追加と削除]ボタンをクリックします。

3 「McAfee VirusScanの削除」の画面で[はい]ボタンをクリックします。



「共有ファイルを削除しますか?」の画面が表示された場合は「すべていいえ」ボタンをクリックしてください。

- 4** 「コンピューターからプログラムを削除」の画面に「アンインストールが完了しました。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
- 5** 「ファイルを削除しますか?」の画面が表示されたら[はい]ボタンをクリックします。
- 6** Windowsを再起動します。
以上で削除は完了です。

■ NEC Soft MPEG 1.0 の削除

NEC Soft MPEG 1.0 の削除は[コントロールパネル]の[マルチメディア]を使用していきます。

- 1** 動作中のアプリケーションをすべて終了してください。
- 2** [スタート]メニューから[設定]-[コントロールパネル]を起動します。
- 3** [マルチメディア]アイコンをダブルクリックします。
- 4** マルチメディアのプロパティから[詳細設定]タブを選択します。
- 5** [メディアコントロールデバイス]の左のプラス記号(+)をクリックして、デバイスドライバの一覧を表示します。
- 6** [NEC Soft MPEG 1.0]をダブルクリックし、[NEC Soft MPEG 1.0 のプロパティ]の[削除]ボタンをクリックします。
- 7** 削除の確認ダイアログボックスが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。
- 8** [デバイスは削除されました]画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。
- 9** 削除後、再起動を促すメッセージが表示されたら[はい]ボタンをクリックしてWindowsを再起動します。

以上で削除は完了です。

削除したアプリケーションを再追加する

削除したアプリケーションを再追加する場合の手順について説明します。



- ・「バックアップCD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す場合は、『再セットアップガイド』をご覧ください。

■ プロダクトの選択

- 1** Windows95を起動します。
- 2** CD-ROMドライブに本機添付の「バックアップCD-ROM」をセットします。
- 3** [スタート]メニューの[設定]から[コントロールパネル]を起動します。
- 4** [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を起動します。
- 5** [セットアップと削除]タブが選択されていることを確認します。
選択されていない場合は[セットアップと削除]タブをクリックします。
- 6** [セットアップ]ボタンをクリックして[フロッピーディスクまたはCD-ROMからのセットアップ]を起動します。
- 7** 「バックアップCD-ROM」がCD-ROMドライブにセットされていることを確認して、[フロッピーディスクまたはCD-ROMからのセットアップ]の画面で[次へ]ボタンをクリックします。
- 8** [セットアッププログラムの実行]画面の「セットアッププログラムのコマンドライン」が「<CD-ROMドライブ名>: ¥NSETUP.EXE」になっていることを確認して、[完了]ボタンをクリックします。
- 9** [プロダクトの選択]画面が表示されます。

この画面で次のアプリケーションを追加できます。



- ・ ユースフルパックセットアップ
- ・ 添付アプリケーションセットアップ
- ・ DMIT00L
- ・ 98Timer
- ・ pcANYWHERE プラス
- ・ 海外ゲーム対応ユーティリティセットアップ
- ・ VirusScan



ユースフルパックセットアップのアプリケーションを追加する場合は、Part 3「その他の機能を使う」をご覧ください。

■ 添付アプリケーションの追加

ここでは、以下のプロダクトの追加方法について説明します。

- ・ 添付アプリケーションセットアップ

[添付アプリケーションセットアップ]には、それぞれ次のプログラムが含まれています。

- ・ 添付アプリケーションセットアップ
 - 98プレーヤー
 - Hover
 - PCIセットアップユーティリティ
 - 補足説明

- 1 「■ プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
- 2 [プロダクトの選択]画面で追加したいアプリケーションの含まれている項目を選択 [反転表示]して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3 選択した項目のセットアップ画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 4 [セットアップ方法の選択]画面が表示されます。[標準]または[カスタム]を選択してください。
 - ・ [標準]を選択した場合

[添付アプリケーションセットアップ]では、その項目のすべてのプログラムが追加されます。
 - ・ [カスタム]を選択した場合

追加するプログラムを1つずつ選択することができます。

5 [標準] または [カスタム] を選択したら、[次へ] ボタンをクリックします。

- ・ [標準] を選択した場合

表示された画面で、そのまま [次へ] ボタンをクリックします。
アプリケーションの追加が始まります。

- ・ [カスタム] を選択した場合

表示された画面で、追加したいアプリケーションのチェックボックスをクリック(チェックボックスにチェックを付ける)して、[次へ] ボタンをクリックします。
選択したアプリケーションの追加が始まります。



途中で「コピー先に新しい日付のファイルが存在します。上書きしてよろしいですか」のメッセージが表示された場合は、[いいえ] を選択してください。

6 「セットアップが完了しました」と表示されたら、[完了] ボタンをクリックしてください。

システム設定が変更された場合は再起動を促すメッセージが表示されます。
他のソフトウェアを追加する場合は、[いいえ] を選択して、再度手順1に戻って、引き続き追加を行ってください。
追加を終了する場合は、[はい] を選択して、システムを再起動してください。

■Microsoft Internet Explorer 5とインターネットツールの追加

ここでは、Microsoft Internet Explorer 5とインターネットツールの追加方法について説明します。

- 1 デスクトップにある「インターネットエクスプローラ5.01のセットアップ」アイコンをダブルクリックします。
- 2 追加使用許諾契約書の画面が表示されるので、内容を確認して [同意する] にチェックを付け、[次へ] ボタンをクリックします。
- 3 セットアップ方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。インストールが開始されます。
- 4 コンピュータの再起動画面が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。
自動的に再起動します。

再起動後、Internet Explorer 5.01関連プログラムの設定、プログラムの個人用設定が行われます。
以上で完了です。



■DMIT00Lの追加

- 1 「■プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
- 2 [プロダクトの選択]画面で「DMIT00L」をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3 DMIT00Lセットアップの説明画面が表示されます。指示に従い[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 4 [登録]の画面が表示されます。あなたの名前と会社名を入力して[次へ]ボタンをクリックしてください。
- 5 [パス設定]の画面が表示されます。インストール先ディレクトリを指定して[次へ]ボタンをクリックしてください。
プログラムのインストールが開始されます。
- 6 [情報]の画面が表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。
- 7 システムを再起動します。

■98Timerの追加

- 1 「■プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
- 2 [プロダクトの選択]画面で「98Timer」をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3 「98Timerのセットアップを始めます。」と表示されている画面で、[OK]ボタンをクリックします。
- 4 パソコンの絵が描かれているボタンをクリックします。
インストールが始まります。
- 5 「98Timerのセットアップが完了しました。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

:

Part

4

アプリケーションの削除と追加

■ pcANYWHERE プラスの追加

- 1** 「■プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
- 2** [プロダクトの選択]画面で[pcANYWHERE プラス]をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3** [pcANYWHERE]画面で名前と会社名を入力します。[次へ]ボタンをクリックします。
- 4** [オンライン使用許諾契約]画面で[次へ]ボタンをクリックします。
- 5** 「pcANYWHEREは以下の場所にコピーされます。」というメッセージが表示されます。インストール先ディレクトリを指定して[次へ]ボタンをクリックします。
- 6** 「pcANYWHEREプログラムを以下の場所にコピーします。」というメッセージが表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 7** ファイルのコピーが終了すると、「Windows95およびWindowsNT用pcANYWHEREのインストールに成功しました。」と表示されますので[完了]ボタンをクリックしてください。

自動的に再起動されます。

以上でインストールは完了です。

■ 海外ゲーム対応ユーティリティの追加

- 1** 「■プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
- 2** [プロダクトの選択]画面で[海外ゲーム対応ユーティリティ セットアップ]をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
- 3** 「海外ゲーム対応ユーティリティをインストールします。」と表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。
- 4** 「インストールを開始します。」と表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。
- 5** 「インストールが終了しました。」と表示されたら[終了]ボタンをクリックします。

以上でインストールは完了です。



■ NEC Soft MPEG 1.0の追加

NEC Soft MPEG 1.0の追加は[コントロールパネル]の[ハードウェア]を使用して行います。

- 1** CD-ROMドライブに本機添付の「バックアップCD-ROM」をセットします。
- 2** [スタート]メニューから[設定]-[コントロールパネル]を起動します。
- 3** [ハードウェア]アイコンをダブルクリックし、[ハードウェアウィザード]を起動します。
- 4** [インストールを始める]画面で[次へ]ボタンをクリックします。
- 5** 新しいハードウェアを自動的に検出する選択画面で[はい いえ]を選択し、[次へ>]ボタンをクリックします。
- 6** インストールするハードウェアの種類に[その他のデバイス]を選択して[次へ>]ボタンをクリックします。
- 7** [ディスク使用]を選択し、[フロッピーディスクからインストール]ダイアログでコマンドラインに<CD-ROMドライブ名>:¥NECMPEGと入力し、[OK]ボタンをクリックします。
- 8** 画面に[NEC Soft MPEG 1.0]と表示されますので、[次へ>]ボタンをクリックします。
- 9** [完了]ボタンをクリックするとファイルのコピーが開始されます。
- 10** ファイルのコピー終了後、再起動を促すメッセージが表示されたら[はい]ボタンをクリックしてWindowsを再起動します。

以上でNEC Soft MPEG 1.0が再追加されます。

■VirusScanの追加

- 1** 「■プロダクトの選択」の手順1～9を行います。
 - 2** 「プロダクトの選択」の画面で、「McAfee VirusScan v4.0.3a(プレインストール版)」をクリック(反転表示)して、[OK]ボタンをクリックします。
 - 3** 「セットアップへようこそ」の画面で[次へ]ボタンをクリックします。
 - 4** 「Network Associatesソフトウェアの使用許諾契約書」の画面で[はい]ボタンをクリックします。
 - 5** 「セットアップ方法」の画面で[標準]にチェックを付け[次へ]ボタンをクリックします。
 - 6** 「インストール設定の確認」の画面で設定内容を確認し[次へ]ボタンをクリックします。
インストールがはじまります。
 - 7** 「McAfee VirusScan」の画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。
 - 8** 「McAfee エマージェンシーディスクウィザード」の画面が表示されます。
エマージェンシーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし[継続]ボタンをクリックします。
- 
- エマージェンシーディスクを作成する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクが2枚必要になります。
- 9** 「新機能の説明 McAfee VirusScan」の画面が表示されたら、最新の情報を読む場合は[はい]ボタンを読まない場合は[いいえ]ボタンをクリックしてください。
 - 10** 「変更事項」の画面が表示されたら[次へ]ボタンをクリックします。
 - 11** 「インストールが完了しました」の画面が表示されたら[はい]、直ちにコンピュータを再起動します。[]にチェックを付け、[終了]ボタンをクリックします。

これでインストールは完了です。

索引

記号

98Timer	26
98Timerの削除	75
98Timerの追加	81
98プレーヤー	2

C

CDを再生する	3
---------------	---

D

DMIT00L	16
DMIT00Lの削除	73
DMIT00Lの追加	81
DOS APインストーラ	55
DOS APインストーラの注意事項	62

L

LANシリーズのデータを見る	51
----------------------	----

M

Microsoft Internet Explorer 5とインターネット ツールの削除	72
Microsoft Internet Explorer 5とインターネット ツールの追加	80
MPEG 動画を再生する	12

N

NECA IIME95	42
NECA IIME95ツールバー	42
NEC Soft MPEG1.0	12
NEC Soft MPEG1.0に関する注意事項 ...	13
NEC Soft MPEG1.0の削除	77
NEC Soft MPEG1.0の追加	83

P

pcANYWHEREプラス	32
pcANYWHEREプラスの削除	76
pcANYWHEREプラスの追加	82

V

VirusScan	38
VirusScanの削除	76
VirusScanの追加	84

ア

アプリケーションを削除する	68
アンインストール機能を使って削除する ...	76

ウ

ウイルススキャン	38
ウイルスの検査	38

エ

英語モードフォント	53
-----------------	----

オ

オーディオCD	2
オーディオCD/ビデオCDの再生順序を指定 する	9
オーディオCDを聴く	4

カ

海外ゲーム対応ユーティリティの削除	76
海外ゲーム対応ユーティリティの追加	82
かな漢字変換(NECA IIME95)	42

コ

コントロールパネルを使って削除する	70
コンピュータウィルスに備える	38

サ

削除したアプリケーションを再追加する ...	78
------------------------	----

シ

自動的にウィルスを削除する	40
手動でウィルスを削除する	41

ス

スキャンワクチン	38
----------------	----

テ

添付アプリケーションの削除	71
添付アプリケーションの追加	79

二

日本語モードフォントの切り替え	54
-----------------------	----

ヒ

ビデオCD	2
ビデオCD(カラオケCD)を再生する場合のご 注意	14
ビデオCD(カラオケCD)を見る	6

フ

フォトCD	2
フォトCDを見る	10
プロダクトの選択	78

メ

メディアプレーヤー	14
-----------------	----

98 MATE

アプリケーション操作ガイド 98MATE (Windows 95インストール)

初版 2000年6月

NEC

P

808-884762-002-A

このマニュアルは再生紙(古紙率:表紙50%、
本文100%)を使用しています。